



学校法人南山学園

2023年度

事業計画書

**NANZAN**  
SCHOOL CORPORATION

## 目 次

理事長メッセージ	1
学園全体事業計画	5

### 設置校別事業計画

1. 南山大学	8
2. 南山高等学校・中学校	
(1) 男子部	12
(2) 女子部	17
3. 聖霊高等学校・中学校	24
4. 聖園女学院高等学校・中学校	29
5. 南山大学附属小学校	33
6. 聖園女学院附属聖園幼稚園	37
7. 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園	40

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、各単位校の事業計画書に記載している内容から変更となる可能性がありますことを予めご承知おきください。

※ 各単位の項目に記載の★印は、別途作成している「南山学園中期計画（2020年度～2024年度）」において、5年間の間に取り組むこととしている計画として記載されている事項のうち、2023年度において取り組むものであることを示します。

2023年4月1日

教職員のみなさん

## 理事長メッセージ

学校法人 南山学園  
理事長 市瀬 英昭

「カトリック学園としての教育モットー『人間の尊厳のために』のもと行われる教育・研究の場で学ぶ学生、生徒、児童、園児がそれぞれの場で『ともに学ぶ喜び』を感じ、全教職員が本学園の教育理念を理解して、ここで『ともに働く喜び』を感じて、学園としてその教育事業の実りを日本社会と世界へ向けて発信する」

### 教育モットーの由来

1907年9月8日、3名の神言修道会（以下、「神言会」）会員が日本での宣教活動のために神言会総本部より派遣され横浜に上陸しました。1909年8月には、将来、南山学園を創設することになる同会会員のヨゼフ・ライネルス神父（1874年～1945年）が来日しています。日本におけるカトリック教育の重要性を痛感していたライネルス神父は「高潔、誠実、善良であれ」「一人ひとり、必ずひとつの尊い使命を与えられた、かけがえのない存在である」との確信のもと、名古屋の地に、1932年に南山中学校を1936年には南山小学校を設立し、今日の南山学園の礎を築きました。

その後、多くの先達の努力と善意の方々の献身的な働きによって引き継がれてきた南山学園は、名古屋聖霊学園および聖園学院との二度の法人合併（1995年および2016年）、名古屋聖霊短期大学、南山大学短期大学部、南山国際高等学校・中学校の閉校（2004年度末、2019年度末、2022年度末）を経て、2023年4月1日現在、愛知県と神奈川県において、幼稚園から大学まで8つの単位校よりなるカトリック総合学園となりました。本学園はキリスト教世界観に基づく学校教育を目指しており、学園内の各単位校はそれぞれの歴史と校風を持ちながら学園全体の方向性について教育モットー「人間の尊厳のために」(Hominis Dignitati)を共有しています。この教育モットーは、南山学園創立者ライネルス神父の信念を引き継ぐ形で、第7代南山学園理事長アルベルト・ボルト神父（1908年～1990年）が発案したものです。しかし、それは個人的な理想ではなく、キリスト教世界観に深く根ざしたものとなっています。それはまた、一人ひとりが、例外なく、「神の似姿」に創造された侵すことのできない存在であるという聖書的人間観です。

新型コロナウイルス感染症拡大を経験している現在、また、世界に起きている様々な紛争や災害を目の当たりにする中で、「人間の尊厳のために」は本学園のみならず、広く社会と世界へ向けて発信されるべきメッセージになったと言っても過言ではありません。今後、様々な困難を経て、世界は積極的に「共に生きていく」ことについて考え、実践する方向へ

舵を切るのではないかと思われます。確かに、自然を含む「他者との共生」への道は険しいものですが、人類が生き延びるために、それも単に生き延びるだけでなく、幸せに生きていくためにそのような方向性が必要であると思われます。政治も経済も法律も医学も科学もそして「教育」もすべて「人間のため」にあるのであって、決して逆ではないということは言うまでもありませんが、問題はそれらが『『すべて』の人間』の『『本当』の幸せ』に向けられているかどうかということです。南山学園の教育活動、研究活動が目指す目標はそこにあります。各単位校には、この共通の教育モットーを堅持し、それぞれの具体的な場で実践していただくようお願いいたします。

### 教育理念の実践のために

2017年4月1日に理事長に就任した際には、本学園の基本方針と目指すべき方向性を再確認することを旨とし、ハンス ユーゲン・マルクス前理事長が2016年4月1日に掲げられた理事長基本方針を継承する形で理事長方針をお示ししました。理事長の再任に際し、また、2032年の学園創立100周年まで10年という節目にあたり、理事長メッセージとして、南山学園が掲げる教育理念（「宗教性の涵養」、「知的理解と厳しい知的訓練」、「地域社会への貢献」、「国際性の涵養」）について、私なりの理解をお示しし、教職員のみなさんと共有したいと思います。そのうえで、本学園の教育理念の具体的な実現に向けて、みなさんが考え、行動するうえでの道しるべとなるキーワードをお示ししたいと考えます。

#### 「宗教性の涵養」

これは、カトリック学園としての教育・研究活動の基礎をなす部分です。宗教という場合、二つ次元を区別しそれを関連付けることが肝要となります。一つは、すべての人間に共通の普遍的な宗教性ともいうべき次元の宗教です。他は、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教、仏教といった個別の具体的な宗教です。この意味における宗教は、具体的な「窓」と言えるでしょう。キリスト教という「一つの窓」から見ると世界は「どう見える」のか、そしてどう「ともに生きていける」のか、それらを学ぶ機会が本学園では提供されます。諸宗教は、それぞれの独自性と個性を生かしながら協力し、世界の平和のために貢献することが求められており、キリスト教もその貢献に参加しています。各単位校におけるアプローチは当然のことながら異なります。幼年期には、実際の体験が重要視されますが、世代が上がっていくにつれて知的、理論的な表現が必要となります。とりわけ大学においては高度で客観的な理解がなされることにより、異なる立場の他者とも知的なレベルの対話を可能とすることが求められています。これは、教育理念の次の側面へと進みます。

#### 「知的理解と厳しい知的訓練」

この点についても各単位校での取り組みはそれぞれ異なっていますが、すべての知識

や学びは独善的な方法ではなく、他者との対話の内に獲得されるものであるとの理解が共有されています。自分と他者との事柄に誠実に関わっていく中で真理へと近づく姿勢が大切となります。学びにおいては「知的」な側面だけでなく、総合的なアプローチが必要となります。その意味で、従来の「主要科目」（主に5教科）とそれ以外の「周辺科目」といった区別は再考を迫られることとなります。すべての科目が大切であり、すべては繋がっています。重要ではない科目はありません。「認知能力」だけでなくコミュニケーション力、共感力、忍耐力などを指す「非認知能力」の大切さを想起したいと思います

#### 「地域社会への貢献」

すべての知識と学びの実りを自分のためだけにとどめておくことはできず、周囲へ広がっていく、ということに関連しています。南山学園は地域社会に支えられ、地域社会とともに成長してきました。これまでにのべ22万人を超える卒業生を輩出し「人間の尊厳のために」を实践する社会作りに貢献してきました。地域社会とのつながりも各単位校においてそれぞれ異なりますが、各単位校で独自の実践を継続して下さるようお願いいたします。この貢献は地域社会への恩返しという意味も含んでいます。

#### 「国際性の涵養」

南山学園の最初からの関心事でもあります。世界に存在する様々な国と文化に尊敬の念をもって接し、その出会いと対話による学びを大切にします。その際、自国の文化についての学びの重要性も再認識することになります。自らの文化と言語に関する理解なくしては、他文化・他言語との実りある対話は期待できないからです。人間だけでなく他の動植物が「ともに暮らす家」（教皇フランシスコ『ラウダート・シ』）である地球の上でさまざまなつながりの中で生かされているという事実に目覚め、すべて人が「他者」について責任を持っているとの自覚の上に行動を起こすとき、わたしたちは、真の意味の国際人となるのではないのでしょうか。

教育理念の实践には、学園に属する全構成員のみなさんとともに、直面する様々な課題に向き合い、行動しなければ実現はできません。健全な財政的基盤を確保するための「基準財務シミュレーションに示される目標額の達成」や、各単位校における目的および事業計画を具現化した基本的方策となる「中期計画」（2020年度～2024年度）の実現、自律的な学校運営のための「ガバナンス・コード」の遵守は、その大前提となります。それぞれ立場は異なりますが、みなさまそれぞれの立場から、どのような取り組みができるのか考え、行動していただくようお願いします。さらに、教育理念の实践を考えるうえでの道しるべとして、以下のキーワードをお示しします。新たな取り組みに着手する際、既存の取り組みの見直しをする際、何か困難に直面した際、このキーワードに焦点を当ててくださるようお願いいたします。

いたします。

- ① 各単位校が自校の歴史と校風を大切にしながら、一つの学園としてのアイデンティティを保つこと
- ② 各単位校間の連携、情報交換を促進すること
- ③ ミッションスクールの良さをアピールすること
- ④ 学園外の社会とりわけ同窓生との繋がりを大切にすること
- ⑤ 学園内の全教職員が本学園の歴史や理念を深く知る機会を持つこと
- ⑥ 学園の全構成員が誇りと喜びを共有できる学園を具体化すること

### 将来へ向かって

変化の激しい現代社会にあって世界と日本における「教育」が今後どのような展開を遂げていくのかについて正確に予測することはできません。しかし、どのような変化の中にあっても本学園の教育モットーは変わることがありません。この教育モットーの大きな方向性を共有しながら、教育理念の実践のために、各単位校は、それぞれの方法で具体的な課題に丁寧、誠実に取り組んでいただきたいと思います。人間の尊厳には、自然を含む「他者への責任」ということが含まれます。「人間は責任的存在である」と言われますが、この「責任を持つ」という在り方、あるいは、見返りを求めない「無償の愛」という行為は、時代がいかに変化しようとも、AIやロボットが取って代わることのできない、人間の尊厳に固有な長長であり続けるであろうと思われまゝ。人間の尊厳に生きることは抽象的な概念の中ではなく実際の生き方によって具体化されるはずのものです。人間の尊厳に生きる、それは、例えば、他者の中に、「宝」を見いだしそれを輝かせる、というような在り方である、とも言えます。教育の現場で必要とされているのは、向き合う相手に自身の尊厳を自覚させるような対話的な関わりではないでしょうか。これは教職員のみなさんの間にあっても同様です。教職員のみなさんには、本学園に属する学生、生徒、児童、園児が、自分たちの中にある宝、素晴らしさに気づきそれを伸ばしていく、誰かの、何かの役に立つことが喜びとなるような指導と関わりをお願いいたします。今後も、南山学園が、単なる現状肯定ではなく、あるべき社会の形成へ向けて貢献する人材を送り出していくことができるよう、学園に属する全ての構成員のみなさんのご協力を今一度、お願いする次第です。

以上

## 2023年度事業計画(学園全体)

★は「南山学園中期計画」(2020年度～2024年度)において取り組む事項と関連している項目です。

### I. 2023年度事業計画の概要

2022年に南山学園は創立90周年を迎えました。学園共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」に基づき、カトリックミッションスクールとしての特徴や役割を再認識し、学校教育を通じて社会に役立つ人材を育てていきます。また学校法人の経営については、法令遵守はもちろんのこと、昨今の社会の変化や要請にこたえながら、着実に事業を推進してまいります。

2023年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・学園創立100周年を見据えた、新たな理事長基本方針の策定・公表を行います。
- ・2022年度末に閉校した、南山国際高等学校・中学校の校舎解体を滞りなく進めます。
- ・次期南山学園中期計画(2025年度～2029年度)の策定に向け、2023年度後半より準備を始めます。

2023年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・事務執行にかかるさらなる業務効率化を高めるべく、文書業務の電子化の促進を検討します。
- ・学園の財政改善に向け、2022年度に策定した基準財務シミュレーションの目標額達成に取り組みます。

### II. 新規事業

#### 1. 学園全体

##### (1) 理事長基本方針の公表

2022年度に南山学園は学園創立90周年を迎えました。次の100周年を見据え、南山学園の建学の理念を実現するために、2023年度に新たな理事長基本方針を策定・公表し、地域社会へ開かれた学園運営をめざします。

##### (2) 次期南山学園中期計画の策定準備 ★

2020年4月に改正私立学校法が施行され、2020年度から2024年度の5年間を計画期間とした「南山学園中期計画」を策定し、実行を始め、2023年度は計画4年度目となります。南山学園自己点検・評価委員会においては、進捗評価方法(評価の基準およびエビデンスのあり方)を課題として認識しており、次期計画(2025年度～2029年度)を策定する際には、進捗評価方法をあらかじめ定めた上で、次期計画を立案できるよう、2023年の後半より準備を始めます。

##### (3) BCP(事業継続計画)の策定に向けた具体的な作業開始 ★

2020年度に学園としてのBCP(事業継続計画)の策定の必要性が課題として提示され、それを受けて2021年度は複数のコンサルティング業者より、BCP策定に関するプレゼンテーションを受ける機会を設けました。2022年度においては、理事会において外部コンサルティングを導入することを承認し、コンサルティング導入に向けて準備を進めました。2023年度は業者選定を行い、学園全体のBCP策定に着手するとともに、数校の個別BCPの策定を始めます。

#### 2. 施設・設備

##### (1) 南山国際高等学校・中学校の校舎解体

2022年度末の閉校に伴い、2023年度の1年間をかけて校舎ならびに敷地内の建物や設備を解体し、更地にします。工事においては、近隣への影響を極力排除し安全第一で進めます。

敷地内の豊田市からの借用地は豊田市に返還し、学園所有地は豊田市に譲渡する予定です。

### 3. その他

#### (1) 学園共通 Web 受付フォームシステムの機能拡張 ★

2021 年度より学園内サーバー上に新たに学園全体で利用できる Web 受付フォームを設置し、運用を開始しました。2023 年度には、既存の Web 受付フォームの機能拡張を行い、個人面談や 1 日に複数回設定される説明会・相談会の予約など、時間枠での予約申込・キャンセル機能を追加します。この機能拡張により、従来は電話で行っていた予約受付が Web 受付フォーム上で 24 時間受付可能となります。さらに、予約のキャンセル等も時間的制約を受けず Web 受付フォーム上にて可能となり、利用者の利便性向上を実現します。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 学園全体

#### (1) 「私立大学版ガバナンス・コード」に基づく対応

学園運営の指針を明示した「南山学園ガバナンス・コード」は、2020 年 4 月に策定されてから 3 年目を迎えます。2022 年度の遵守状況点検を踏まえ、遵守できていない項目の改善に取り組み、学園運営のさらなる健全化を進めます。

#### (2) 学園内連携のさらなる充実 ★

学園内連携推進協議会の下にある高大協議会、小中高協議会、小学校・大学連携協議会の各協議会において「学園内相互連携の一層の充実」の実現に向けた議論を 2020 年度より開始し、設置校間の教員交流や情報交換の場の必要性について、これまでに確認しています。具体的な連携方法について模索を続けていますが、2023 年度は社会貢献や産学官連携に寄与することができないのかなど、より具体的な方策について検討を進めます。

### 2. 広報活動

#### (1) 学園広報活動 ★

南山学園広報委員会において検討を行い、2022 年度より従来の新聞広告のみの広告展開から、新聞広告に加え鉄道・空港・集客施設等の各種媒体を活用した広告を展開し、「カトリックのミッションスクール」と「国際性」を軸に、学園のブランディング活動を行いました。各種媒体の継続性をふまえ、2023 年度も同媒体で掲出することを基本とし、広報活動を展開します。

2019 年度から実施している各単位校合同での進学相談会「トワイライト合同相談会」を継続し、総合学園としての南山学園の PR とともに、各単位校入試広報活動の支援を行います。

### 3. 施設・設備

#### (1) PCB 廃棄物の処分 ★

高濃度 PCB 廃棄物である蛍光灯安定器の処分は 2021 年度に完了しました。低濃度 PCB 含有の可能性のある機器については PCB 含有濃度検査と必要な機器の入替を計画的に実施することで、処分期限の 2027 年 3 月末までに適切に処分を行います。

#### (2) 省エネルギーならびにカーボンニュートラル対策 ★

昨年度に引き続き、CO<sub>2</sub> 排出量の削減を目指し、省エネルギー対策として空調設備更新や省エネ運用を実施します。2050 年のカーボンニュートラルに向けて、太陽光発電等再生可能エネルギー設備の導入計画を具体化するとともに、CO<sub>2</sub> フリー電気の利用を検討します。

#### (3) 遊休資産等の活用と処分 ★

南山学園が所有する遊休資産等については、多角的に活用方法を検討するとともに、将来的に活用の見込みのない土地については処分を含めた提案をします。



#### **(4) 聖園女学院高等学校・中学校正門前土地問題**

国道 467 号線との境界が明確ではなかった聖園女学院高等学校・中学校正門前の土地については神奈川県と確認を進めています。2023 年度は引き続き神奈川県に働きかけ、測量に基づいた土地の確定作業を進めます。

### **4. 社会貢献**

#### **(1) 中部経済連合会・中部経済同友会への加盟等による経済界とのつながり ★**

学校法人は教育活動および大学での研究活動を通じて、次世代の育成や新しい知見・技術等の学術を通じて、経済発展の一翼を担っています。南山学園では、中部経済連合会・中部経済同友会などの中部地域の経済団体に継続して加盟し、経済界とのかかわりを持つとともに、双方向の情報交換により、社会のニーズや変化を把握し、中部地域の経済発展への寄与と本学園の教育・研究活動の向上に努めます。

### **5. 財務**

#### **(1) 財政改善に向けた取り組み**

南山学園における財政改善に向け、これまで事業活動収支計算書の当年度収支差額均衡を基本とした単年度ごとの目標値を設定することで、段階的な改善を図ってきました。これについて、今後財政基盤を一層強固なものにするため、収支の改善に加えキャッシュフローの回復も意識した「基準財務シミュレーション」を 2022 年度に策定しました（聖園女学院高等学校・中学校のみ 2023 年度に策定）。

各経理単位は基準財務シミュレーションに示された目標額を達成すべく、2023 年度より取り組むこととなります。今後学園としては各経理単位の収支とキャッシュフローを毎年度正確に評価し、以降の予算執行（事業計画の実施等）について、目標額と照らし合わせ、必要に応じて各経理単位に精査を求めることとします。

#### **(2) 有価証券運用の取り組み**

近年続いていた低金利情勢から徐々に変化を見せている現在の市場環境において、既存の資産運用方針を遵守しつつ、南山学園の保有資金と市場の金利情勢を把握した上で、状況に応じた有価証券運用を実施します。また、南山学園の財政基盤を健全かつ強固なものにするため、リスクを最小限に抑えながら、更なる運用益獲得につながる取り組みを検討していきます。

### **6. その他**

#### **(1) 文書業務の電子化の促進 ★**

ペーパーレス化を推進し、さらなる業務の効率化を高めることを目標として、電子決裁システムの拡充、電子契約の取扱を検討します。

#### **(2) 各単位補助金に係る交付状況の分析**

2022 年度各単位に交付された補助金について、前年度と比較して 2023 年度以降の申請でより多くの補助金が獲得できるよう分析し、獲得できる案件はその方法を提案していきます。

以 上

# 2023年度南山大学事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

## I. 2023年度事業計画の概要

南山大学の75年の歴史を振り返り、改めて本学は教育モットーである「人間の尊厳のために」とともに国際性を基軸として教育・研究活動に取り組んできており、そのことが本学の価値を高めていることを確認しました。この揺るぎない確信に基づいて、2023年度からロバート・キサラ学長の第2期、新執行部体制のもと、創立100周年に向けて、新たな大学の可能性を見出していきます。

2023年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・大学院理工学研究科博士前期・後期課程の設置構想
- ・外国語学部のあり方に関する検討
- ・令和4年度大学設置基準等の改正への対応
- ・南山大学ライネルス中央図書館を拠点とした教育・研究の推進
- ・Nanzan Anime Study Tourの実施
- ・3つの新入試制度の実施
- ・外国人留学生別科開設50周年に向けた準備

2023年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・南山大学グランドデザインの発展的再検討
- ・キャンパス内における多様性の尊重
- ・「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」プログラム事後評価調査の作成と自走化
- ・学内国際交流のさらなる活性化
- ・認証評価を踏まえた改善計画の策定と実行
- ・Nanzan International Certificateの発展・強化
- ・環境問題への取り組み
- ・国内外の大学間連携の推進
- ・大学戦略広報の強化
- ・安定的な財政基盤の構築

## II. 新規事業

### 1. 学校全体

#### (1) 大学院理工学研究科 博士前期課程・後期課程の設置構想 ★

2023年4月に、理工学研究科データサイエンス専攻博士前期課程を開設します。また、2021年度の改組によって新しく設置した学科での学びを継続し、さらに高い専門性を身につけられるよう、理工学部の完成年度にあわせて、2025年4月に理工学研究科博士前期課程・後期課程の開設を目指していきます。

#### (2) 外国語学部のあり方に関する検討

これまで本学の「国際性」を支えてきた外国語学部のあり方について、昨今の社会的ニーズに応えるべく、さらに発展・強化を目指して検討を始めます。

#### (3) 令和4年度大学設置基準等の改正への対応

2022年に大学設置基準等が改正され、「学修者本位の大学教育の実現」と「社会に開かれた質保証の実現」が求められています。それにともない、本学の教育活動がより充実し、学生主体の教育の質が保証されるように、カリキュラム、基幹教員、主要授業科目の位置づけ等について、各組織において対応を進めていきます。

## 2. 教育・研究

### (1) 南山大学ライネルス中央図書館を拠点とした教育・研究の推進 ★

南山大学ライネルス中央図書館は、「である」「つながる」「かわる」というキーコンセプトを実現し本学の教育・研究拠点となるべく、多くの学生と教職員が集い知的交流をはかることができる魅力的な取り組みについて検討を始めます。

### (2) Nanzan Anime Study Tour の実施 ★

外国人留学生の新たな受け入れ事業として、2023年度よりはじめて、Nanzan Anime Study Tourを開講します。このツアーは、学術的なテーマを持った授業とフィールドトリップを連動させたプログラムであり、地域連携と国際性を併せ持つ本学ならではのプログラムです。

## 3. その他

### (1) 3つの新入試制度の実施

3つの新たな入試制度「推薦入学審査（特別協定校）」、「学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）」、「外国人留学生推薦入学審査【指定校】」を実施します。特に、高大連携に関する協定を締結したカトリック系高等学校を対象とする「推薦入学審査（特別協定校）」では、本学の教育内容への理解を深めることを目的として、モジュールと称する授業を高校2年生、3年生に対して実施していきます。この連携により、本学と各協定締結校とが共有するキリスト教世界観に基づく学校教育を通じて、幅広い教養と高い専門性を持った、国際社会におけるリーダーとなり得る優秀な人材を育成することを目指します。

### (2) 外国人留学生別科開設 50周年に向けた準備 ★

本学の国際性を象徴する外国人留学生別科が2024年に開設50周年を迎えます。その節目を記念する行事について準備を進めます。外国人留学生別科における日本語教育の実績とその世界的ネットワークを、大学全体の国際化を進めるうえで、さらに有効活用できる方法を検討していきます。

## Ⅲ. 継続事業

## 1. 学校全体

### (1) 南山大学グランドデザインの発展的再検討 ★

2007年に20年後の将来像として策定した「南山大学グランドデザイン」は2027年に完成を迎えます。2020年の中間評価で十分に達成できていなかった課題に代えて、コロナ禍後大きく変化した社会情勢やICT技術の発展と急速な普及等、さまざまな要素が変化していることをふまえ、大学がさらに発展する方法を検討していきます。

### (2) キャンパス内における多様性の尊重

2022年度に合理的配慮を必要とする学生に対する支援体制を整えました。合理的配慮を必要とする学生の受け入れとその実施にあたり、全構成員が理解を深め、適切な対応を継続していきます。

## 2. 教育・研究

### (1) 「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」プログラム事後評価調書の作成と自走化 ★

2018年度に採択された大学の世界展開力強化事業(米国)プログラムは2022年度に終了しました。2023年度は本プログラムの成果について事後評価調書を作成するとともに、今後の継続に向けて体制

を整え、プログラムを自走化できるように努めます。この事業を通じて構築した NU-COIL (Nanzan University - Collaborative Online International Learning) プログラムは、教育効果ばかりでなく入試広報としても効果が高く、教職員の SD (Staff Development) としても活用できることから、全学部・研究科、国際センターが協力して、さらなる COIL 型授業の増加を検討していきます。

## **(2) 学内国際交流のさらなる活性化 ★**

国際交流事業は過去3年間コロナ禍によって大きな影響を受けましたが、その間、学内における国際交流の促進に力を入れてきました。その象徴である南山大学ヤンセン国際寮には2022年9月から留学生も本格的に入寮し、レジデントリーダーとリビングコーディネーターを中心として、多様な文化や価値観を持つ学生が生活を共にして多文化共生力を育みながら、対話型のスキル養成講座や交流イベントを開催しています。2023年度は初年度の実践から明らかとなった課題への取り組みとプログラムの発展を目指します。また、多文化交流スペース (Stella)、World Plaza、Japan Plaza などの国際交流の場を学生が利用することを促進する等の方策を考えていきます。

## **(3) 認証評価を踏まえた改善計画の策定と実行**

本学は、2020年度の大学基準協会の認証評価の結果をもとに、学部における学習成果の把握方法、研究科における定員充足等の改善に取り組んでいます。中間報告にあたる改善報告書を提出する2024年度に向けて、内部質保証委員会が中心となり、引き続き改善課題に取り組んでいきます。

## **(4) Nanzan International Certificate の発展・強化**

Nanzan International Certificate については、2022年度末に、Nanzan International Certificate の発展・強化に係る検討ワーキング・グループから答申が出されました。この答申にしたがって、学生や地域社会にとってより魅力あるプログラムの策定に取り組んでいきます。

# **3. 社会貢献**

## **(1) 環境問題への取り組み**

本学は、「南山学園環境宣言」の一環として、「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に2021年度に参加しており、引き続き、CO<sub>2</sub>排出量の削減を目指し、電気・空調等の各設備の省エネルギー運用を実施していきます。また、学生による環境問題関連のプロジェクトや、本学研究者の主導する社会実装につながる環境問題関連の研究・教育への支援等を目指していきます。

## **(2) 国内外の大学間連携の推進 ★**

「令和3年度大学発新産業創出プログラム (START) 大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム支援形成」に採択された Tongali プロジェクトでは、アントレプレナーシップ (起業家精神) を養うプログラムを通じて、東海地方の企業および大学との連携を深めていきます。大学の強みを補完しあえる国内他大学との連携を強化していきます。

学生交流協定を締結した海外の大学・機関は、2023年2月末の時点で33カ国・地域117大学となりました。引き続き海外協定校の開拓に努めるとともに、教育・研究をさらに推進するために、部局間協定の締結も進めます。

# **4. その他**

## **(1) 大学戦略広報の強化**

本学の教育の理念や取り組み、そして学術成果とその価値を社会により幅広く知っていただけるよう効果的に発信し、本学で学びたいと思う人を国内外で増やし、本学を支えていただけるネットワークを拡大するための広報について検討していきます。学長室のリーダーシップのもと、各組織が緊密な連携を可能にする戦略的な広報体制の構築を目指します。

## **(2) 安定的な財政基盤の構築**

本学の魅力を維持・向上させるためには、安定的な財政基盤を構築することが不可欠です。学園から示された財政に係る中期目標を達成するためにも、教育・研究の充実を図るためにも、財政基盤の

根幹に直結する収容定員の充足率には特に留意する必要があります。また、引き続き補助金の獲得に努めていき、さらに寄附金の多様化についても検討していきます。くわえて、2022年度に実施したクラウドファンディング等、新たな財源の確保に向けてアイデアを出し合い、取り組んでいきます。

以 上

## 2023年度南山高等学校・中学校（男子部）事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

### I. 2023年度事業計画の概要

1932年の旧制南山中学校設置から今年で91年目を迎えます。思春期という多感な時期を迎える子どもたちに正しい価値観を与え、「地の塩、世の光たれ」という聖書のみ言葉を深く理解し、国際的視野を持ち、人類愛を实践できる人間の育成に努めます。これまでに積み重ねてきた、キリスト教的愛に基づいた思いやり、愛情、協力、奉仕など円満な人格形成のために、家庭的雰囲気尊重して相互の信頼と協力を大切にした男子部の教育の良いところを伸ばしながら、時代や社会の変化にも対応し、さらにその教育を深化させていきます。

2023年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・中学校生徒へのPC1人1台体制を開始します。
- ・聖堂の3連カリヨンスイングベルの修繕工事を実施します。
- ・学校Webページのリニューアルを行います。

2023年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・カトリック学校の使命、他単位との連携や南山大学附属小学校との接続、財政状況等を踏まえ、中長期を見通した将来構想の策定に取り組みます。
- ・新教育課程への対応を進めます。
- ・生徒自治会活動、部活動や生徒指導、生徒による社会貢献活動を通じて、生徒の自主性を尊重しながら、生徒一人ひとりの心身の成長に貢献します。
- ・段階的かつ系統的に位置づけられた校外研修の継続的実施および海外研修の実施検討を行います。
- ・学園内単位校との人事交流を含め、教員の研修・研鑽に取り組み、教育力の向上を図ります。

### II. 新規事業

#### 1. 教育・研究

##### (1) 中学校生徒PC1人1台体制の開始 ★

本校における教育のICT化に向けた環境整備は、2021年度までに全教室に電子黒板を配置し、校内のWi-Fi環境を完備していますが、次のステップとして2023年度より生徒用PC1人1台体制を開始します。本校では、将来の大学等でのレポート作成や研究、その先にある就職時にも役立つPC活用技能の定着を見据えて、キーボードを使ってしっかりと文章が書け、様々な情報処理や活用ができる能力を身につけることができるよう、WindowsPC（Surface）を用意し、情報教育に活用します。まずは2学期以降に中学校1年生にPCを貸与し、年次更新で貸与を進めるほか、2024年度からはBYOD[Bring Your Own Device:個人で用意した端末を持参する]方式を基本とした高等学校でのPC1人1台体制を開始できるよう、環境整備を行います。

これらのICT環境整備に伴い、可能な教科から教科書も「デジタル教科書」を採用し、更なる教育の質の向上に役立てます。

#### 2. 施設・設備

##### (1) 聖堂3連カリヨンスイングベルの正常化 ★

男子部聖堂には鐘楼があり、3連の組み鐘（カリヨン）が設置されていますが、その鐘は原則朝8時30分と午後6時に鳴り、単に時間を知らせるだけではなく、キリスト教精神に基づく教育を実践する

学校の雰囲気醸成および南山教会の鐘とあわせて地域の雰囲気づくりに大きく貢献しています。しかしながら、ここ数年は鐘の振幅に異常があり、正常な動作が困難になっているほか、鐘回りの聖堂壁面への損傷も見つかっています。2023年度は学園によるキリスト教活動関連事業への費用援助（神言会会員人件費節約分[法人集約分]）を受けて、根本的な解決に向けた修繕工事を行い、鐘の正常化を行います。これにより、3連の美しい音色を取り戻し、カトリック学校の象徴として、また生徒の情操教育や学校や地域の雰囲気づくりへの役割を永く果たしていくことを可能とします。

## **(2) 学校 Web ページのリニューアル ★**

現在の学校 Web ページは 2017 年に制作したものを使用していますが、コロナ禍の影響もあり、この数年間で通信環境、デバイス、動画の活用や様々なオンラインを活用したコミュニケーションの日常化など、著しく変化してきました。また学校現場において情報提供のペーパーレス化も進んでおり、様々な情報提供を紙ではなく、データを活用して行うことも増えてきています。これらの変化に対応するために Web ページも随時改修を加えてきましたが、2023 年度には全体を再構築し、リニューアルを行います。受験生・生徒・保護者・卒業生・一般といった多様な方がアクセスされる中で、情報が欲しい人に情報にスムーズにアクセスしてもらえるよう、コンテンツを整理するとともに、動画の活用や、届出・手続き書類やお知らせの掲載ページの設置等、情報の掲載量の増加に対応し、時代にあった Web ページに変化させます。受験生にはより男子部のことを知ってもらえるよう、生徒や保護者には男子部の教育を信頼してもらえるよう、卒業生や一般の方々には男子部を理解し支援していただけるよう、その一助にしていきます。

# **Ⅲ. 継続事業**

## **1. 学校全体**

### **(1) 中長期を見通した将来構想の策定**

「将来構想委員会」を中心として、生徒の優れた才能を発見してその個性を伸ばできるように、「生徒に求めるべき学力」と「教科教育力の向上」について議論しています。その合意を基準として各教員が自覚と責任を持って自らの教育実践を見直します。中学校の卒業生 200 名がそのまま高等学校に進学することで、6 年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、ゆとりを持った効果的な一貫教育が可能です。また、カトリック学校としての男子部の使命、学園内他単位との連携、南山大学附属小学校との教育の接続、財政見通し等、内的刷新が図れるよう将来計画を議論、策定します。

### **(2) 聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養**

宗教の授業は、人間にとって大切な事は何か、何を目指して生きていけばいいのかを考え、心を豊かにするための時間であり、カトリック学校として何より大切にしています。中学校では最初に男子部の歴史を学び、南山をよく知ると同時に、母校を愛する人物の育成を目指します。また高等学校では古今東西の世界の思想を学び、より広い視野の育成に資するよう、聖書に基づく価値観と宗教心を涵養します。

### **(3) 教職員の研修・研鑽・自己点検 ★**

カトリック学校の教員に相応しい研修・研鑽・自己点検の機会を設けているほか、教科教育の指導法、生徒指導、ICT 活用、危機管理対応等、様々な教員対象の外部研修・セミナーへの参加について情報を教員間で共有し、参加を推奨します。また、2022 年度末に閉校した南山国際高等学校・中学校の教員 5 名が男子部の教員に加わります。これまでの南山国際高等学校・中学校での経験や指導法が、男子部の教員の新しい発見や刺激にもなることが期待されます。一人ひとりの教員の指導力の向上が、男子部の教育力の向上と生徒の成長につながるため、積極的に取り組みます。

#### (4) 広報活動の充実 ★

日常的な教育活動を広く理解してもらい、多くの児童およびその保護者に本校への入学を希望していただくために、春・秋・冬に開催される本校主催の説明会や体験授業を中心とした広報イベントをより充実させていきます。また、Facebook ページや Web ページの満足度を高めることで、本校の教育に関する理解を広めます。さらに、中学校受験志望者の裾野を広げることで本校の志願者を増やすため、私学協会を核にした PR 活動、イベント、学習塾などが実施する説明会などにも参加し、内容を充実させます。今後も、学園広報委員会の手助けも受けながら学園内他単位との連携による説明会を実施します。

#### (5) 南山大学・学園内他単位・南山大学附属小学校との連携推進

学園内高等学校・中学校とは生徒会活動・部活動において活発な交流を展開しています。また南山大学とは、大学説明会・オープンキャンパス等への参加に加え、様々な部活動での大学の施設借用、社会科での博物館資料展示、英語科の授業における南山大学留学生別科の学生による講義など、高大連携を積極的に進めています。さらに、南山大学附属小学校とは、児童・生徒間でブラスバンド部の演奏会を開催し、交流を継続しています。今後も幼稚園から大学までを有する総合学園の良さを活かし、より充実した教育環境を提供します。

#### (6) 植栽の検討 ★

緑溢れるキャンパスを目指し、四季を通じて生徒や教職員、来校者の癒しの場となるよう植栽を実施します。今後は校舎の北側・部室棟西側の植栽を検討し、緑化を推進するとともに、「八事の森のミッションスクール」として自然環境の教育にも力を注ぎます。

## 2. 教育・研究

#### (1) 高等学校新教育課程への対応と検討 ★

高等学校の教育課程は、2022 年度の 1 年生から年次進行で新課程に移行している途上であり、2023 年度は 1 年生と 2 年生が新教育課程となります。2022 年度に行った取り組みを検証し、新しい学びにも対応しうる学習活動の創意工夫や改善を継続して行うとともに、2024 年度の 3 年生の教育課程変更にかかる検討を行います。観点別評価などの新しい評価基準に対応しながら、現在の成績処理システムの効果的活用の検討についても継続していきます。

#### (2) デジタル採点システムの導入 ★

2022 年度にデジタル採点システムを採用し、より精度の高い生徒の成績管理とともに、教員の成績処理負担の軽減を実現しました。2023 年度は、これまでの評価を踏まえたうえで、さらに入試採点にもシステムを導入できないか検討を行います。正答率、合計点算出の点で、効率化を図ります。

#### (3) 進路意識の涵養を目的とした高大連携の模索

本校では、生徒一人ひとりが自分自身を理解し、将来を考え、望む進路を拓いていくため、中学校 1 年生から系統立てたキャリア教育・進路指導を行っています。これに対し、総合学園の単位校である強みを生かして、高等学校 1 年生の進路オリエンテーションでの講演や模擬授業、単位校在籍生徒を対象とした学園内オープンキャンパス、また育友会 (PTA) 主催による保護者向け大学見学会等を南山大学との高大連携事業として、2023 年度も継続して実施します。これまでに培ってきた方針・指導を継続しつつ、より生徒に資する取り組みを南山大学とともに模索していきます。

#### (4) 図書館の充実

「知の拠点」である図書館は、校内でアクセスのよい東校舎 1 階の生徒玄関の前にあり、日曜日を除いて毎日開館しています。現在の蔵書は 51,645 冊 (2021 年度末) ですが、生徒および教員の希望図書を精査しながら、新しい書籍を積極的に購入し、6 万冊に達するように引き続き計画します。世界遺産の DVD やクラシック音楽の CD など視聴覚資料も充実しており、DVD 等が利用できるメディアコーナーや、外の樹木や草花を眺めながら学習できる読書カウンター、60 席の閲覧テーブルなどを、授業や放



課後の自学自習において積極的に活用してもらえよう、図書館便りなどで情報発信するとともに、座席配置の工夫、消毒の徹底などを継続しつつ、機能的に使えるように検討を継続します。

## (5) 生活指導

「安全・健康・美化」のテーマに沿って、主体的に生活実践できる生徒の育成に努めます。始業式や終業式の式典後に行う生徒への講話等を通じ、明確な指導方針を提示していきます。また合同ホームルームや講演会を開催し、自転車通学者に対する交通安全や学校内外での携帯電話の取扱い方、SNSとの付き合い方等、その問題点を認識させ対処法を学ばせます。

## (6) 生徒の自治活動 ★

生徒自治会の自発的・積極的な活動は、男子部の大きな特徴の1つであり、一人ひとりの生徒にとって有意義なものとなっています。9月の文化祭と体育祭、3月のスポーツ大会、児童養護施設の子どもたちを招待する2月のスプリングカーニバル、芸術鑑賞等コロナ禍においても生徒の気持ちにより添い、可能な限り実施を目指します。2022年度は文化祭・体育祭ともに規模を縮小し3年振りの対面開催でしたが、生徒が主体的に計画し大成功でした。2023年度もオンラインと通常開催の両方の可能性を模索しつつ、展示の更なる充実や全体運営の向上が期待されます。生徒議会と各委員会は、学内環境の充実と美化、講演会等の文化活動、機関紙『南窓』の発行などに日常的に取り組み、3校(男子部・女子部・中京大学附属中京高校)合同地域活動、他校との交流活動は可能な限り連携を図りながら取り組みます。

## (7) 部活動

部活動は自主性・創造性、他人を思いやることのできる人間の育成を目指します。心身ともに健康で安全な部活動が継続できるよう、事故防止の対策・啓発として、熱中症対策・コロナ対応・AED講習会等も開催しています。運動部ではバスケットボール・野球・ソフトテニス・硬式テニス・陸上・卓球・水泳・サッカー・ラグビー・柔道・アメリカンフットボール・バドミントン・剣道など、各部が活発に活動しています。文化部では将棋・アマチュア無線・ブラスバンドが各大会で活躍しており、写真・奇術等々が外部の発表会に積極的に参加しています。なお、ブラスバンドは女子部器楽部との合同コンサートを毎年開催しています。

## (8) 校外研修

教育活動は校内のみにとどまりません。生徒の多面的な成長や、主体的な学びの場、キャリア形成の一環として、多くの学年で校外研修の機会をもちます。中学校1年生では「山の生活」(自然体験活動および創立者墓参)、「市内探訪」(名古屋市内を自主計画にて活動)、中学校2年生では「スキー訓練」「職業体験」、中学校3年生では「旅」および中学生全学年で行う東山動植物園での「写生大会」があります。高等学校1年生では大学訪問等の「オリエンテーション」、高等学校2年生では「修学旅行」を行います。いずれも6年間の男子部での教育の中でカリキュラムとして段階的にまた、系統的に位置づけられて実施されます。

## (9) 海外研修

「国際的視野の育成」の観点から、2つの海外語学研修を実施します。「オーストラリア研修」では、約3週間、ホームステイ先と学校の2つの場で英語を使い学びながら、現地の文化や人々の考え方に触れ、多様な考え方を身につけます。「ニュージーランド・ターム留学」では、約3か月間現地生活を送ることでツールとしての英語を身につけます。どちらのプログラムも、研修中に学んだことが南山での学校生活、そしてその後の人生において大きな果実となるよう、内容の充実を図ります。

また、「イタリア・キリスト教文化研修」はこれまで17回実施しました。12月末の8日間、クリスマスを祝うローマのサンピエトロ大聖堂、アッシジの聖フランチェスコ教会、フィレンツェ、ピサ、ミラノを訪れます。レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』で有名なサンタ・マリア・デル・ラッチェ教会やウフィツィー美術館、その他世界遺産となっている史跡を、教会のミサに参加しながら

ら研修します。いずれの海外研修についても、2023 年度の実施については、新型コロナウイルス感染拡大状況を見ながら実施を検討します。

なお、2021 年度より海外に行けなかった際は、夏休み中の 5 日間を使って「エンパワーメントプログラム」として、日本国内に留学している世界からの留学生をグループリーダーとして学校に招き、英語を用いてグループワークやプレゼンテーションを行っています。英語の運用能力の向上に加え、異なる文化や考え方に対して理解を深めることを目的として行います。

### 3. 施設・設備

#### (1) ICT 教育環境の充実に向けた対応 ★

新規事業として中学校 1 年生での PC1 人 1 台体制を開始しますが、これまでに整備している全ての専任教員へのノート PC の配備、全教室への電子黒板の配備に加え、非常勤講師が利用できるノート PC (Surface) の整備を引き続き進めます。また校内で使用する PC の増加に伴い、校内 Wi-Fi 回線設備の増強を行うとともに、2022 年 10 月から ICT 機器の管理・利用支援を行うために配置した「ICT 支援員」については、対応日数を増加させる計画です。

### 4. 社会貢献

#### (1) 地域清掃 ★

地域を構成する一人としての自覚を持ち、高校の野球部員が毎週木曜日の朝に学校周辺からいりなか駅周辺までの清掃活動を行っています。近隣住民の方からも評価されており、引き続きこの活動を実施します。

#### (2) ボランティア活動

奇術部においては、老人福祉施設・子ども食堂・愛知県母子寡婦福祉連合会などの年間 20 カ所程度の施設を訪問しています。加えて、いりなか商店街の地域に貢献するイベントなどにも積極的に参加し、八事小学校トワイライトスクールへは毎月訪問しマジックを通じた交流を行っています。また、青少年赤十字奉仕団にも登録しており、いのちと健康を大切に、地域社会のために奉仕する活動を行います。

#### (3) 育友会による活動

生徒の保護者による組織である「育友会」では、柔道着リサイクル・式服リサイクル等の活動により、物品の有効活用を行っています。また、年 2 回行う講演会のうち、「秋の講演会」においては、著名人の講演を聴講できる機会として一般にも開放し、地域の文化向上にも貢献しています。

### 5. その他

#### (1) 学園内単位校における教職員の人事交流 ★

学園内単位校との人事交流に努め、より良い実践を共有することで活性化に繋がっていきます。特に同じ教科の教員が協働することで、「教科教育力」の向上を図ります。

#### (2) 財政状況にかかる検討 ★

財政状況の改善に向けて 2018 年度より学納金改定を行いました。2036 年度までは校舎建築の借入金返済が続くことに加え、今後施設・設備の維持および更なる充実に向けた構想を実現するためには、資金の確保が必要です。また物価の高騰による光熱水費の上昇も学校運営には大きな打撃となっています。中長期的な視点での事業実施に必要な財源の維持を念頭に、予算執行においてはコストを十分に意識した執行を行うことはもちろんのこと、収入増加の方策を検討し、実行します。安定した生徒数の確保による生徒納付金収入の維持は必須として、生徒募集・広報活動と日々の教育の充実に努めます。補助金収入についても、更なる収入比率の増加に向けて、新たな補助金の獲得や、私学助成の拡大を求める活動に継続して取り組むとともに、2021 年度から開始した寄附金募集については、寄附を検討されている方に本校への寄附ができることが伝わるよう、ツールの工夫等に取り組みます。

以上

## 2023年度南山高等学校・中学校(女子部)事業計画

★は「南山学園中期計画」(2020年度～2024年度)において取り組む事項と関連している項目です。

### I. 2023年度事業計画の概要

ICT環境という教育インフラの整備・更新、より一層の活用を図りつつ、学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」生きる人を育てるための、キリスト教精神に基づく人格教育を主軸とした6カ年の体系的な一貫教育の確立、校訓「高い人格・広い教養・強い責任感」の動機づけとなるよう教育活動を推進します。また、新型コロナウイルス感染症関連の政策転換を視野に入れ、学内にとどまらない体験的な学びの場の継続・創造に努めます。

2023年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・女子部創設75周年を記念してさまざまな事業を行います。
- ・生徒一人一台のタブレット等の端末環境を、授業のみならず多方面の学校活動に活かします。
- ・校内に整備されたICT環境をフル活用した授業実践、校務の効率化に努めます。
- ・卒業生チューターによる学習支援を開始します。
- ・LED照明への交換を開始し、2023年度より3ヶ年かけて実施します。
- ・東校舎2階のトイレのリニューアルおよび電話設備の更新を実施します。
- ・メール連絡システム「ウェブでお知らせ」を導入します。

2023年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・精神的なストレスを抱えた生徒に対して、きめ細やかなケアとサポート体制を継続します。
- ・ICT環境の活用について、実践例を共有するなど学内研修を重ねます。
- ・第1体育館の建て替えに向け、引き続き学園内関係部署との折衝を行います。
- ・財政状況改善に向け、一般寄附金募集の周知を図るとともに、経費削減に努めます。

### II. 新規事業

#### 1. 学校全体

##### (1) 女子部創設75周年事業

宗教教育のより一層の涵養を図るため、女子部創設75周年を記念して、新たに生徒エントランス(玄関)外側扉の両サイドにスタンドグラスを設置します。また、完成した75周年記念動画や生徒が作成したマスコットキャラクターを通して女子部の魅力を広く発信します。

##### (2) 新カリキュラムへの移行継続 ★

中学は2021年度に新カリキュラムを全面導入し、高校は2022年度から年次進行で新カリキュラムへ移行しています。2023年度は新たに高2が新カリキュラムに移行します。引き続き、教員にとっては新学習指導要領に沿った授業づくり、とりわけ総合的な学習および探究の授業については、さらなる研究を進めていきます。2022年度から採用した業者提供のプログラム(中1は「新しい大学入試問題-日本アクティブラーニング協会」、中2は「ソーシャルチェンジ-教育と探求社」、中3は「ENAGEED-エナジード」)の効果的な活用方法についても研究します。高校は探究的な学びとして、一人ひとりの興味関心に基づいた研究活動を実施していきます。随時振り返りを行い、その効果も見極めながら、また、大学入試の動向も見据えつつ、より良いカリキュラムの編成をめざします。

同時に、生徒にとっては7時間授業日が増えることに伴う、生徒会活動や部活動などの課外活動への影響も懸念されることから、そうした日常の課外活動および学校行事全般についても見直しを図り

ます。

## 2. 教育・研究

### (1) 生徒一人一台の端末を活用した授業や課外活動の実践研究 ★

2021年秋に校内無線LAN環境の整備(通信回線の増強)が完了し、BYOD(Bring Your Own Device)方式による生徒一人一台のタブレット等端末の活用を開始しました。端末使用の最低限のルールも生徒たちと協働で策定を終えましたが、教員間、教員・生徒間、生徒間での活用実践例を共有しつつ、この教育インフラの活用法について研究を進めます。授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」の利用にも慣れ、教員からの一方向ではない双方向型の授業に役立っています。また、オンライン動画講座の「スタディサプリ-リクルート」の利用も促進します。スタディサプリの利用状況は、中高全体で7割以上の生徒が複数回利用している状況で、高3は9割近い生徒が利用しています。中学生の視聴内容には高校の分野も含まれており、中高一貫教育を特色とする本校の実情が反映されているといえます。一方高校生、特に高3は標準レベルの視聴も多く、受験を控えて学び直しのツールとしてこのスタディサプリを利用している状況が見られます。2023年度からは、2025年度入試から導入される情報の講座も開設される予定で、より一層の利用が期待されます。

### (2) ICT環境を活かした校務の効率化 ★

教員の校務軽減および情報セキュリティ強化のため、2019年度に学園共通統合型校務支援システム(スコール)を導入し、2022年度から専任教員一人一台のノートPC環境も整い、タブレット端末も併用しながら校務の効率化、ペーパーレス化等の経費削減に努めています。また、現在デジタル採点の導入を検討しています(試用版を一部導入)。高校でも観点別評価が導入され、考査においても観点別を考慮した作問が求められることから、デジタル採点を利用することで設問ごとの分析や観点別評価を付ける一助となることが期待されます。

### (3) 卒業生チューターによる学習支援の開始

私学として、学びの保障は最優先事項と思われる。これまでも教員主導の各種補習や個別相談などは随時実施していましたが、より生徒に近い目線での指導や支援・アドバイスを期待して、本校卒業生(大学生)をチューターとする自由学習会を実施します。これは単に勉強を教えるというだけでなく、勉強の仕方、すなわち生徒の自立的学習習慣の定着を目的とするものです。また、学習だけに限らず日常の学校生活など教員目線では気がつかないことを相談にのれるケースもあると期待します。2023年度は年10回程度、土曜日の午前中に中学生の希望者を対象に実施を計画しています。

## 3. 施設・設備

### (1) LED照明への交換

北南校舎新築後、照明器具については東校舎を含め照明のLED化が進んでおらず、旧来式の電材照明となっています。現存する旧来式の電材のLED化により、電球交換等の施設業務の大幅な削減および電力消費量の大幅な削減が期待できます。

### (2) 東校舎2階トイレリニューアル工事

まもなく築30年を迎える東校舎は、ほとんどのトイレが和式になっており、東校舎での授業が続く際にも放課時間に北南校舎のトイレを使う、といった事例が見受けられます。生徒の利便性を優先して、渡り廊下のある2階に限定して、改装を実施します。

### (3) 電話機および主装置の更新

北南校舎新築に更新した電話機および関連する主装置が老朽化しています。財政的な問題からなかなか更新することができませんでしたが、危機管理上からも検討の結果、実施することとしました。

## 4. その他

### (1) 制服に追加アイテムを導入 ★

2022年秋に現行の制服にスラックス、サマーベスト、カーディガンを新たに追加しました。これを

機に服育の一環として、今春より「制服着こなしガイドブック」を制作し配布します。体操服についてもより機能性の高いものに転換します。また、制服および体操服をオンラインでも購入できるよう利便性を図ります。

## (2) メール連絡システム「ウェブでお知らせ」の導入

保護者とのメール連絡システムとして NTT レゾナント社の連絡システム「ウェブでお知らせ」を導入します。これまで緊急時および各種案内の連絡手段としてメール配信を利用していましたが、2023年度よりさらなる利便性の向上を目指して本システムを導入します。具体的には、生徒の欠席・遅刻等の連絡を保護者が Web 上で簡単に行い、その情報を教員は各自の端末上で確認できるようになることから、保護者や教員・事務の負担(電話対応や連絡簿提出といったやり取り)が解消され、連絡ミスも軽減されます。また、本システムにはアンケート機能や多目的掲示板機能も備えられており、これらを使い各家庭との連携をこれまで以上に細やかにしていきます。

# Ⅲ. 継続事業

## 1. 学校全体

### (1) キリスト教精神に基づく人間観、世界観、学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」生きる人となるための価値観の醸成 ★

2022年度も新型コロナウイルスの影響で、教育活動の多くが縮小・代替・中止を余儀なくされましたが、2023年度は可能な範囲で従来通りの活動に戻していきます。

宗教の授業とは別に、宿泊行事等のなかで宗教講話の機会を設けています。各学年の事情に合わせ、本校の指導司祭に限らず外部の司祭やシスターにも依頼し、生徒たちの心の成長を促します。

中1・中2の静修会や中3・高2の研修旅行の折には、現地の教会をお借りするなどしてお話を伺ったり、共に祈りを捧げる時間を設けます。

日々の朝の聖歌とお祈りは欠かせません。また、金曜日の終礼時には校長・指導司祭による講話、毎月1回放課後に生徒たちと協働で行われるミサも続けていきます。

クリスマスの時期には、全校生徒が参加するクリスマス聖式、中1希望者が参加するクリスマス修養会、音楽部員を中心としたクリスマス聖歌隊コンサート、器楽部員有志による医療施設でのクリスマスコンサートなども大切なミッションの機会と捉え、可能なかぎり再開・実施します。

### (2) 6ヵ年の体系的な一貫教育の確立 ★

中高6ヵ年の体系的な一貫教育の内容を科目ごとに明記した『中学学習の手引き(教科別)』・『高校学習の手引き(教科別)』をそれぞれ入学時に配付します。

また、年度初めに、学習についてのアドバイスやさまざまな学問分野の紹介、職業紹介、大学入試の仕組み等を詳述した『学年別進路の手引き』を中3から高3に配付します。秋には、主に卒業生の社会人や大学生等によるアドバイスをまとめた『進路の手引き・別冊』を全校生徒に配付します。6ヵ年のゆったりした流れのなかで生徒たちが自らの将来をじっくりと構想できるよう、合わせて計11冊の『進路の手引き』を在学中に配付します。

生徒たちが安全・安心に生活できるよう、生活指導の一環として中1では「インターネット安全・安心講座」、中2では女性警察官による「対話型防犯教室——痴漢被害等に遭わないために」、愛知県弁護士会による「いじめ予防出張授業」、高1では「ネットいじめ対策講座」を実施します。

6ヵ年の縦のつながり・交流としては、生徒会活動や部活動はもちろん、文化祭や体育祭の行事を中高一緒に開催しています。

6月には、中1から高2まで芸術鑑賞会を実施します。2023年度は音楽座によるミュージカルを予定しています(これまで、劇団四季等のミュージカル、落語、交響楽団の公演、狂言、映画等の鑑賞を

実施してきました)。

高3の3学期の特別授業では、6カ年の集大成として、高3担当以外の教員も授業を担当し、最終学年の最終学期にふさわしい有意義なものにします。

キャリア教育の一環として、卒業生を含めて外部から講師を招き、特別授業や講演会を実施します(これまで講師に、臨床心理士、弁護士、判事、医師、TV放送編成制作局員、一級建築士、日本モンキーセンター学芸員、ジャイアントパンダ飼育係、警察署少年係、自動車メーカーエンジニア、損害保険会社人事部社員、予備校講師、様々な分野の専門家をお招きしました)。各種進路講演会の実施も検討します。

中1から中3までは「(中高一貫校向け)学力推移調査」、高1から高3までは「外部模試」を実施し、6カ年を通じた系統的な学習・進路支援体制を推進します。

中高連携をより一層強化するため、本校は「併設型中学校・高等学校」に移行していますが、そのメリットを活かし、高校の教科書の中3で購入するなど中学の授業をより高度な内容にします。

### **(3) 第1体育館建て替えの検討 ★**

建築基準法改正に伴い変更が生じた建て替え計画を見直すため、専門委員会を設けており、引き続き学園内関係部署とも連携・折衝しながら建築場所等を含めた協議を進めます。

### **(4) 精神的なストレスを抱えた生徒に対するケア、サポート体制の強化**

精神的な不調を訴える生徒が増加傾向にあることから、2021年度からスクールカウンセラー(臨床心理士)の勤務を週3日に増やしました。生徒の多様化に伴い、広い視野をもったサポート体制をめざして教育相談とサポート委員会を一本化し、組織名を「教育相談委員会」と改めました。各学年会と連携してケアの必要な生徒の個別なサポートは、学年会とも十分相談して組織的に取り組みます。学年主任を中心とした隔週の報告会では、各学年の生徒が抱えている問題点などを共有します。教育相談委員会主任および補佐、養護教諭、生活指導部長、教頭、副校長、スクールカウンセラーで構成される報告会も毎月1回開きます。また、このような問題を抱える生徒との橋渡しになっている養護教諭が2022年度から3名体制となりサポート体制を強化しています。また、不調の一因ともなっている成績不振者への手当を拡充すべく、2023年度からは卒業生の協力を得る形でのチューター制を導入します。

### **(5) 家庭(保護者)とのより密接な連携の推進**

家庭との密接な連携を推進していくため、学年別保護者会、クラス別保護者会、授業参観、個別面談だけでなく、部活動の保護者会も実施します。保護者対象の講演会、宗教講話も実施しています。また、学年通信・クラス通信の拡充、新規導入の「ウェブでお知らせ」を利用して、学年・クラスと家庭とのより一層の連携強化も図ります。

### **(6) 植栽管理についての検討**

校舎建築から年月が経ち、また近年の気候変動により、植栽という資本を失っていく状況にあります。対処として、校舎建築当初のコンセプトおよび植栽の状況を熟知する業者のコンサルティングを活用して費用対効果の高い、かつ教育の観点もふまえたメンテナンスを引き続き検討します。また、猛暑対策として自動灌水システムの見直しも随時行います。危機管理上の懸案であった校舎北側の3本のヒマラヤスギも、南山中高友の会のご厚意で伐採費用を負担していただき、その後には桜の苗木を中心とした新たな植栽を検討しています。

## **2. 教育・研究**

### **(1) 国際的視野の育成**

新型コロナウイルスの影響で、2022年度もこれまで実施してきた3つの海外研修プログラムは中止しましたが、英語科主催の「エンパワーメントプログラム」と題する新しい形の短期国内研修を実施しました。本プログラムは、将来の日本を担う潜在能力の高い日本の若者を対象に、オックスフォー

ド大学、ケンブリッジ大学、カリフォルニア大学などの欧米をはじめとする現役の大学生・大学院生を招聘し、ディスカッションなどを通じて自らのあり方・生き方について考えるものでした。英語の受信力と発信力を向上させる効果が期待できるため、2023年度についても同様の企画の実施を検討しています。また、2023年度は3つの海外研修プログラムを再開します。イギリス研修とカンボジア研修は7月と8月に、イタリア研修は12月にそれぞれ予定しています。

## (2) 男女別学の特色を生かした教育の推進 ★

愛知県下唯一の男女別学校という特色を生かすため、男子部プラスバンド部・女子部器楽部の「ジョイントコンサート」を開催します。その他、生徒自治会レベルでの交流も継続します。

## (3) 特色ある教育づくり

2020年度より改称した「自然体験活動委員会」では、希望者対象のさまざまなプログラムを策定・実施します。当面は新型コロナウイルスに配慮しながら日帰り可能なフィールドを選定し、教科横断的な学習資料を提供したり、専門ガイドからレクチャーを受けたりしながら体を動かして自然に触れる機会をつくります。

2009年度から世界117カ国が参加する文部科学省指定事業(2021年度にユネスコ「SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業」に名称変更)「地球学習観測プログラム(グローブ)」の指定校としてGLOBE委員会を設置し、生物・水質・大気の観測調査をしています。

2015年度に国立研究開発法人科学技術振興機構の「中高生の科学研究実践活動推進プログラム(学校活動型)」に採択されました。学校が主体となり、学校と大学等が連携・協働し、中高生自ら課題を発見し、科学的な手法にしたがって進める探究活動の継続的な取り組みを推進するプログラムです。2018年度でプログラムは終了しましたが、学校独自で引き続き活動を行います。

理科主催の特別企画として、中1での動物園実習、中2でのプラネタリウム見学、JAXAや国立天文台による授業やさまざまな分野の研究者による「出前授業」を行います。家庭科では、高1の「家庭基礎」で日本新聞協会が行っているNIE(Newspaper in Education)活動の「新聞切り抜きコンクール」への参加を継続します。また、家庭科と保健体育科が共同で2019年度に初めて実施した近隣の2つの保育園での保育実習も継続します(2022年度は新型コロナウイルスの影響で中止)。社会科や国語科主催のフィールドワーク企画も引き続き計画します。

## (4) 大学入学者選抜試験への対応

2021年度入試から実施された「大学入学共通テスト」の導入など、大学入試改革は大きな変革期のなかにあります。特に2025年度入試からは、新課程入試が始まり大きな変更が予想されます。文部科学省や各種教育産業からの情報なども分析しながら、必要な対策を実施します。

## (5) 英書の多読の実施

英語科では、大学入学共通テストに向けて4技能(聞く、話す、読む、書く)の育成を図るため、中1から高2においては授業内、全学年で授業外の英書の多読活動を行います。また、希望者向けの朝多読や、休み時間でも使える読書室を設けます。将来的にはiPadを使つての多読、多聴が同時にできるようにします。2018年度より4年計画で英書を計約5,000冊購入し、充実した多読環境を整備してきましたが、今後はそれらの入れ替えについても随時行います。

## (6) キャリア・トライアル(職業体験プログラム)

2016年度からキャリア教育の一環として、高校生(高1・高2)の希望者を対象とした職業体験プログラムをスタートさせました。2022年度から新カリキュラムへ移行するのを契機に、高1の総合的な探究の時間の一環として組み入れ、全員が参加する形に拡充しました。ガイダンス・事前学習の後、3～5日間の職業体験に参加し、報告書をまとめます。中3を対象に、キャリア・トライアルの報告を含む高校生活全般や進路に関して、自分たちの経験を伝える場を設ける活動も行います。さらに、キャリア・トライアルから派生した課題解決型の職業体験プログラム(校内実施)も継続して実施する予定

です。

### **(7) 性に関する教育**

保健体育科・家庭科の授業で性に関する教育は実施していますが、中2と高2向けには、産婦人科医の方に実際に医療現場でどのような性の問題が起きているのかを、それぞれの対象学年に応じた講演をしていただき、自分の問題として考えていく機会を設けます。

### **(8) 教職員の研修・研究**

教員の研鑽・自己点検に資するため、学校生活、学習、進路、行事等についての生徒アンケートを全学年で実施します。また、社会科教科会が積極的に行ってきた教員向けの公開授業のほか、ICT委員会の教育分科会がICTを活用した公開授業を実施するなど、スキルアップに努めます。

年に2回実施している教員研修については、教職員の意見を聞きながらニーズに合ったプログラムを策定します。また、研究助成金を利用しての外部研修への参加も促します。

2022年度の教育・研究活動をまとめた『年報』33号を発行し、教員の研鑽・相互学習を促します。

### **(9) 南山大学・南山大学附属小学校との連携の推進 ★**

高校生に向けては南山大学学園内オープンキャンパスへの参加を呼びかけ、保護者向けには南山大学キャンパス見学会を実施します。総合学習の一環としては、高1を対象に南山大学の各学部の先生による特別授業「南山大学セミナー」についても引き続き実施します。また、心理人間学科の先生に依頼して2019年度から始めた中2を対象としたコミュニケーションスキルアップのための取り組みも継続します。さらに、社会科主催の南山大学人類学博物館との連携によるワークショップも継続します。その他にも教育実習生、インターンシップ研修生としての南山大学の学生の受け入れなど、大学との協力関係を継続します。2022年度高3生の特別授業で、南山大学SDGs普及啓発団体CLOVERによる授業を初めて実施しましたが、引き続き連携を図っていきます。

南山大学附属小学校（以下、南山小学校）とは、小中高協議会や同引継ぎ分科会等のみならず、双方の教員が交流・意見交換できる機会を設けます。また、南山小学校の5年生を対象とした単位校見学会を実施しています。南山小学校出身者は女子部を志望する児童が多いにも関わらず、本校の内情をよく知らないまま志望するケースも多いと聞きます。そのようななかで、志望校の検討をはじめこの時期に単位校を実際に見学するというのは有意義と感じています。現在は教員による説明と校舎見学のみですが、今後は在校生との交流なども検討し、本校の特色をこれまで以上に理解できる場とします。

## **3. 施設・設備**

### **(1) ICTを活用した教育環境の保守・点検・更新 ★**

ICT環境は一通り整備されましたが、これまでICTに精通した一部の教員に依存してきたことは確かです。今後の全般的な運用に際しては、日常的なICT環境の保守・点検・更新等については専門の支援員は必須であることから、ICT支援員を2022年度途中より配置しました。教員が本来の業務に専念できるよう、授業時のICT機器のトラブル処理や教員のスキルアップを図るための人的整備について引き続き検討します。当面は週3日勤務の業務委託ですが、将来的には視聴覚業務との一本化を見据えています。

## **4. 社会貢献**

### **(1) 地域清掃**

近隣住民の方への感謝の気持ちも込めて、学校周辺の地域清掃を含む「一斉大掃除」を年に3回実施します。

### **(2) 募金活動**

宗教活動委員会への呼びかけによる、クリスマス献金(教会を通じた世界児童福祉・国際協力援助・国内生活困窮者援助等のための献金)、および生徒自治会の呼びかけによる、学校祭収益金(バザー等の



実施)の寄附(社会福祉活動・国際医療活動・私学奨学金等)等の寄附活動を続けます。

東日本大震災直後に始まった、教員・生徒有志が協働しての「被災地支援チャリティーコンサート」(募金活動やチャリティーに関連した物品販売なども)を継続します。今後もこうした活動を通じて、他者の痛みや苦しみ、悲しみに寄り添う姿勢を育みます。

### (3) ボランティア活動 ★

器楽部による医療施設などでのクリスマスコンサート(新型コロナ禍で中断中)、小百合会(主にボランティア活動を行う部)による特別養護老人ホームでの交流・催事等のお手伝い(同中断中)、希望者による献血を呼びかけるボランティア等を随時行なっています。こうした部活動の活動のみならず、キリスト教精神を理解し実践するため種々のボランティア活動(例えば現在、子ども食堂へボランティア参加している生徒たちがいる)への参加を奨励します。

### (4) 地域貢献

バンテリンドームナゴヤ・南山大学附属小学校グラウンド等で行われている日本サッカー協会主催ユニクロ共催の JFA ユニクロサッカーキッズ企画(愛知県内児童対象)に、サッカー部の生徒がボランティアで指導に参加しています。

## 5. その他

### (1) 危機管理体制の確立

守衛室常駐体制を維持し、教員による授業中・放課後の校舎内巡回を継続します。また、不審者侵入時の緊急対応訓練を年1回(新型コロナ禍で中断中)、火災・地震対策のための避難訓練も年2回継続して実施します。2019年度の内部監査で指摘のあった大災害発生後の事業継続計画(BCP)については策定を終え周知しましたが、訓練などを通じてブラッシュアップします。

危機管理委員会、災害対策本部、生活指導部、校内サポート委員会、いじめ対策委員会等と、外部諸機関(警察・消防署・児童相談所・医療機関)の連携を、より一層強化します。

緊急連絡等の体制については、新規導入の「ウェブでお知らせ」を活用します。宿泊を伴う学年行事等については、緊急事態発生時の対応マニュアルを整備して迅速な対応ができるように備えています。

### (2) 広報活動の充実

学内における入試説明会(5月)と学校説明会(11月)の実施、年間30回以上の外部説明会・個別相談会への参加を継続します。コロナ禍が継続するなか、学校見学などの機会を増やすなどして受験生のニーズに応えます。また Web ページやフェイスブックのより一層の充実を図り、在校生、卒業生、家庭や地域などへ広く情報発信し、女子部への理解を深めてもらうよう努めます。2023年度は女子部創設75周年を前面に押し出した広報活動を行います。

### (3) 財政改善に向けた検討 ★

北・南校舎の建築から15年以上が経過し、2021年度は空調機の全面入れ替えを行いました。他にも修繕等を要する箇所は多々あります。築約60年の第1体育館はもとより、築30年を迎える東校舎、とりわけトイレ設備の更新は喫緊の課題で、2023年度中の更新工事を計画しています。ただ一方で、収支均衡に向けた財政改善に向けた努力もしていかなければなりません。2020年度から開始した一般寄附金の募集については引き続き周知徹底を図るとともに、利便性を考えてクレジットカードによる寄附システムを導入します。事業計画等についても中・長期的な視点から精査することに努めます。

以 上

## 2023年度聖霊高等学校・中学校事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

### I. 2023年度事業計画の概要

1949年に名古屋市中区三の丸で誕生した本校は、2020年度に完成した瀬戸キャンパス内の新校舎で新たな出発を迎えました。南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」と本校創立時の建学の精神である「光の子として生活せよ」を中心に据え、多くの人々によって育まれた伝統的な教育を継承しながら、未来の聖霊生のために新しい時代に輝く学校を目指しています。

2023年度に新規で実施する主な事業は次のとおりです。

- ・2024年度の「創立75周年記念」行事に向けて、実行プランを作成します。
- ・コロナ禍の中でも海外研修を実施できるよう努めます。
- ・学校の空気環境とエネルギー効率改善のため、冷暖房設備の更新を行います。

2023年度に継続して実施する主な事業は次のとおりです。

- ・施設設備の確認と今後必要となる機器整備を検討します。
- ・新しい教育課程の完成とともに、各教科の専任教員数を点検し今後の教員採用の計画を検討します。
- ・2024年度聖霊中学校の入試について、入試日程や入試課題等を総合的に再検討します。
- ・生徒利用のスクールバス、本校伝統行事である「EVE, My 青春!」、海外研修など本校の生命線とも言える数々の事業について、更なる改善を検討します。
- ・ICT教育環境整備計画の実践と検討を行います。
- ・キャンパスの構造や校舎管理を前提とした、本校教職員の働き方改革について検討します。
- ・教育で「選ばれる学校」となるよう広報活動を強化します。

### II. 新規事業

#### 1. 学校全体

##### (1) 創立75周年記念行事に向けて

2022年度に設置した「創立75周年記念行事企画運営チーム」を中心に、2024年度に迎える式典・記念講演・記念行事・記念誌の作成などを計画・準備します。

#### 2. 教育研究

##### (1) オーストラリア海外研修およびアイルランド語学研修の留保と新たな案の立上げ ★

2020年度から2022年度にかけて、例年7月から8月の夏季休業期間を利用して実施してきたオーストラリア海外研修およびアイルランド語学研修は、コロナ禍にあつて相手国での受け入れ態勢が整わなかったために実施できませんでした。このような状況においても、姉妹校であるオーストラリアの Mount St. Joseph Girls' College (MSJ校) との間では、生徒同士がオンラインによる交流をするなど、相互のコミュニケーションを欠かすことなく3年目を迎えることができました。生徒たちが海外の土を踏めない社会状況にある中、何とか本校の目指す海外での学びを継続していくため、2021年度から春と夏に「World Studies (留学生交流プログラム)」を本校内で実施することにより、海外研修に行けなかった生徒たちにも異文化交流の体験や学びを経験させることができました。

2023年度は、各国の外国人受け入れ体制にも変化が予想されますが、これまでの経験を活かすことで、更に充実した研修となるよう、新しい内容の海外研修プログラムを実施していきます。

### 3. 施設・設備

#### (1) 冷暖房設備の更新（マリア棟・研究棟の一部）

マリア棟・研究棟にある冷暖房設備のうち、マリアホール・視聴覚教室・オーケストラ練習室の冷暖房設備を更新します。現在の設備は、2000年の南山大学瀬戸キャンパス開設から20年以上使用してきた設備であるため、更新することによって各教室の空気環境を改善し、かつエネルギー効率をアップすることによりキャンパスの維持コスト削減にも寄与します。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 学校全体

#### (1) キリスト教に基づく全人教育の継承と宗教教育の確認

宗教の授業、学年ごとに実施される朝礼、中学1年生の修養会から高校3年生の静修の日そして卒業式へと中高一貫で進められる宗教行事と、生徒の実態や時代にふさわしい改善を常に意識しながら、本校の校風にふさわしい宗教教育の確立を目指します。そして、教員一人ひとりのことば一言にさえも本校の教育の精神が宿るように、引き続き全教職員で聖霊教育の基本精神の共有を進めます。

#### (2) 本キャンパスでの新しい教育の構築と教育的活用 ★

2020年度から2022年度にかけては、新型コロナウイルス感染症対策のために様々な制限をせざるを得ませんでした。2023年度は、感染症対策としてのあらゆる制限を緩和していくような新しい局面を迎えることを期待しています。

コロナ禍の始まった2020年度に生まれ変わった新校舎において、すべての生徒が互いの素顔を見ながらのびのびと活動していけるよう、文化祭・式典などの学校行事を充実させていきます。また、オープンキャンパスなどの多くの方々の来校を伴う企画や日常の学習活動や課外活動における施設設備使用について、様々な視点から実施場所、実施要項などを点検し、年間を通して教育上有効な活用方法を継続して更に工夫を重ねていきます。

#### (3) スクールバスの財政改善 ★

南山学園理事会の助言を仰ぎながら、父母の会カリタスやスクールバス聖友会会員との間で持続可能な財務体質への改善について意見交流を進めています。2021年度から開始した10年間規模の財政改善計画に則り、2023年度以降もスクールバス利用者に対する会費等負担の適正化に向けた効果検証と、路線の改廃を含む事業規模の適正化をはじめ、停留所の見直しや便数の削減などによる管理経費支出の圧縮を進めることなど、継続的に財政課題を検討していきます。

#### (4) 「EVE, My 青春！」の継続実施と将来設計の検討 ★

この行事は、本校の伝統行事として2022年度で41回目となりました。おかげさまで、愛知芸術文化センター・コンサートホールにて多くの来場者に温かく迎えられることができました。2023年度も引き続き同コンサートホールで開催します。また2023年度も、旧もちの木広場（現メディアヒロバ）でプレイベントを開催します。開催場所の確保と実施方法について、プレイベントまで含めた当初の計画を安定的に開催するため、学校内外の関係性を高め、伝統を引き継ぎつつ、これまで以上に十分に準備し成功に向けて努力します。

### 2. 教育・研究

#### (1) ICT教育機器の運用と教育活動での活用の研究 ★

全教室映像配信システム、インタラクティブホワイトボードなどの環境整備、更には教員用PCの活用方法など、ICT教育機器運用を進めました。また、学習指導における効果的な活用や校務における運用等について更なる研究開発を進めました。2024年度の生徒一人1台タブレット端末の導入に向けて、2022年度か

ら 2023 年度にかけて 2 クラス分のタブレット端末を先行導入して試用し、活用計画をより具体化します。同時に、情報セキュリティについての教員研修の準備を進めます。

## **(2) 大学入学共通テストへの対応 ★**

過去数年間にわたって変革の時期にある大学入学共通テストへの備えについては、進路指導部の情報収集力を基盤に対応してきました。今後も、大学入学共通テストに対して最新の動向を踏まえつつ、生徒に対して模擬試験受験を積極的に勧めながら、大学ごとの入試情報や指導方針などを教員間で共有し、一丸となって生徒の指導にあたります。

## **(3) 本校における中学・高校の教育課程の共有と進行 ★**

高校の教育課程における選択講座や総合的な探究学習について校内での研修を進めました。2022 年度高校 1 年生から年次進行で適用し、2024 年度に完成します。中学生徒募集から高校卒業後の進路指導までの六年一貫の指導の過程を更に研究します。新たな教育課程に向けて研鑽を積み重ね、教育で「選ばれる学校」となるよう努力し続けるとともに、本校独自の教育課程の持つ可能性について積極的に広報活動を展開します。

## **(4) 授業補助員の試験的な配置の継続**

2022 年度は、中学 1 年生数学の授業に、授業補助員を各クラス週 1 時間、試験的に配置しました。様々な事情で学習の進捗が異なる生徒に対して細かなサポートができていて円滑に授業を展開することができ、生徒の学習意欲の維持向上に期待できるため、2023 年度も引き続き試験的に授業補助員を配置します。

## **(5) 教職員研修の充実**

2022 年度は、危機管理（ハラスメント）や「生きやすさ」をテーマ（生命・不登校・LGBTQ）について複数の研修を行いました。2023 年度は、情報セキュリティ・心のサポーター・危機管理（AED 講習・教職員の防災訓練・不審者対応訓練）などを研修テーマとして計画的に実施します。

## **(6) 部活動全般の見直しを推進**

働き方改革の要請も視野に入れながら複数顧問体制を手厚くし、外部コーチの活用を試みます。特に部の廃止に関するルールを確立するなど、部活動全般の見直しを進めます。具体的には、父母の会カリタスからの援助金制度の見直しを実施します。引き続き生徒の安全を確保しつつ持続可能な課外活動支援を目指します。

## **(7) 南山大学・南山大学附属小学校・学園内中学・高校との連携 ★**

南山大学附属小学校から本校へ、更に本校から南山大学への学園内一貫教育の流れを積極的に紹介し、部活動、文化活動での生徒児童間の交流や提携などを深めます。南山大学附属小学校での学校説明会と本校での学校見学会を引き続き実施します。

## **(8) 職業体験やキャリア指導、進路指導の充実 ★**

2022 年度も引き続きコロナ禍の影響下にあっても多くの方の協力を得ることができ、高校生の活動としての校外事業所でのインターンシップなどを実施することができました。中学 3 年生のハローワーク講座も実施でき、貴重なキャリア指導の機会と捉え、更に充実させます。それぞれの学年にふさわしい職業観を育成することを目標に、今後も活動の継続を目指します。

## **3. 施設・設備**

### **(1) 既存施設設備整備の検討 ★**

より安心・安全な学校生活と魅力あるキャンパスづくりを進める中で、第 2 体育館（旧 M 棟）や給水塔設備など、補修や改修の必要性を見極めて整備計画を推進します。

### **(2) 旧修道院の改修についての検討 ★**

キャンパスと旧修道院は隣接していることで活用範囲は広く考えられるものの、補修や維持管理経費の

必要性も無視できません。聖堂の利用を中心とした今後の活用方法や、補修・維持管理について現実的に検討を進めます。

#### **4. 社会貢献**

##### **(1) 募金活動 ★**

聖霊降臨祭、クリスマス聖式などの宗教行事において、全校生徒による献金という形態で、聖霊会の関係する様々な事業所への支援を続けています。国外国内の被災・生活困難地域に向けて、生徒会や学年単位の活動、DAC(Discussion Action Circle)部などによる募金活動を積極的に推進します。

##### **(2) ボランティア活動 ★**

日常的なボランティア活動だけにとどまらず、学校として継続的な支援活動を模索します。また、コロナ禍ならではの活動やそれにかかる支援を行います。2021年度末から始めたウクライナの支援活動も継続します。

##### **(3) 地域との連携 ★**

コロナ禍にあつて、地元幡山地区および山口地区の自治組織や瀬戸市観光協会との連携のほか、中学3年生の職業体験などにおいても瀬戸市を中心とした事業所への連携協力をお願いすることができませんでした。また、創立記念式典での伝統行事「花いっぱい運動」では、全校生から集められた花束を瀬戸市長はじめ地域の方々や、様々な施設に感謝の言葉とともに届けてきましたが、ほとんど実施できませんでした。2023年度は「コロナ禍にあつてもできること」を引き継ぎ、地域の皆様との間でこれまで築き上げてきた関係を今後も大切にしながらコロナ禍後の連携を進めたいと思っています。

#### **5. その他**

##### **(1) 教育課程の改訂後の教員構成についての検討 ★**

2023年度中の完成を目指し、本校の新しい教育課程の準備を進めています。その中で教科ごとの授業数や教員数を点検し精度を上げています。引き続き、今後の退職者や学園内他単位からの教員の移籍等による教員の年齢構成の変化に十分に配慮して人事計画を検討します。

##### **(2) 校務組織改編についての検討 ★**

役職人事や部署や教科の配置および配属人数等、校務分掌全体の組織改編についてはひとまず落ち着きましたが、勤務時間内での会議のあり方、部活動、学校週番、退勤時刻や校舎管理方法など、働き方改革の視点からの総点検を継続します。

##### **(3) ICT 機器の教育活動における活用の推進と財政計画 ★**

ICT 機器を利用した教育実現のための年次計画（ICT 教育環境整備5か年計画）に基づいて、ICT 教育機器の導入時期や導入方法、校内・校外での利用範囲等について慎重に議論を重ね試行錯誤を続けていますが、早期の導入と運用の要請が社会的に高まっています。年次計画（ICT 教育環境整備5か年計画）は、次の5か年を見据えて更新します。

一部の機器やシステム、アプリケーションを試験的に先行導入することや外部研修会等を通して授業研究は加速させていますが、「教育の中身として何が発信できるか」「生徒たちにどう働きかけるか」「ICT 機器を使いこなすことができるか」など、ICT 教育の前提として学校として共有すべき課題を一つひとつ解決していきます。

一方で、こうした ICT 教育環境を整備し、かつ維持していくためには、長期的かつ大規模な予算を必要とすることで、補助金を獲得してもなお学校にとって大きな財政的負担となるものであるため、教育効果とそれに見合うコストを見極め、引き続き費用負担の在り方を含めた適切な財政計画を検討していきます。

##### **(4) 学校財政の安定化 ★**

学納金改定の中長期的な計画、経常費補助金の獲得、寄附金募集の継続等、財政面における収支均衡を

目標として収入確保に向けて努めるとともに、本校の将来を見据えた長期的な目標に向けて、主体的な目線で中長期および単年度の事業計画立案を進めてきました。引き続き、予算執行段階においても精査しつつ、支出の抑制に努めることにより学校財政の安定化を図ります。

以 上

# 2023年度聖園女学院高等学校・中学校事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

## I. 2023年度事業計画の概要

2023年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮しなければなりません。そのような中でも、生徒が満足できる学習環境の構築に向けて、これまでの宗教教育や国際教育の伝統を継承しつつ、一部教科の習熟度別授業の導入および加速するICT化への対応など、教育内容・環境の充実を進めます。また、進路指導の一環としての高大連携を強化します。

さらに、本校にとって喫緊の課題である定員確保および財政状況の改善に向けて、2024年度からの高校入試導入に向けて関係各署への手続きおよび広報活動を進めます。

2023年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・2024年度からの高校入試導入に向けて関係各所への手続きおよび広報活動を進めます。
- ・中学数学で習熟度別授業を導入します。
- ・進路指導の一環として、上智大学と様々な教育連携を計画、実行します。
- ・教育環境の改善として、高校棟のトイレ改修工事を計画、実行します。

2023年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・宗教性・国際性の涵養、課題解決のための総合力の育成を目指します。
- ・ICT機器を積極的かつ適切に利用するための研究を進めます。
- ・自主的な学習習慣の定着から大学受験指導に至るまで、放課後学習支援の環境を整備します。
- ・進路先として南山大学をより意識できるよう、南山大学と様々な教育連携を計画、実行します。
- ・現地研修、校内研修を通して、日本の文化や人間の尊厳への理解の深化を目指します。
- ・校内LAN設備を更新し、安定した通信ネットワーク環境を生徒に提供します。
- ・社会福祉施設でのボランティア活動、被災地支援のための募金活動を継続します。

## II. 新規事業

### 1. 学校全体

#### (1) 定員確保と財政改善 ★

ここ数年に亘り、入学者数が減少傾向にあり、定員不足となっていますが、定員を確保してこそ健全な財政状態となり、教育活動の充実にもつながります。今後の学校運営も含めて、どのように定員を確保していくか、南山学園理事会と密に連携を取り、協議した結果、2024年度から高校入試を導入することを決定しました。2023年度はそのための準備期間として、入試の仕組みを迅速に構築し、市町村の公立中学校への説明や広報活動を進めます。

同時に、中学校の定員不足解消に向けて外部評価の導入を検討するとともに、転入試を柔軟に活用します。

### 2. 教育・研究

#### (1) 習熟度別授業の導入 ★

学習指導において、特に数学のつまづきを解消するべく放課後の補習・講習を始め対応してきましたが、中1の代数で習熟度別授業を導入します。生徒の学力に応じた授業を展開することで、理解し正答を導き出す達成感を得させ、数学への苦手意識を克服し、学習意欲を高めます。

## (2) 上智大学との教育連携の強化 ★

公立、私立を問わず、神奈川県を始め、関東圏の多くの高等学校が上智大学との教育連携を計画し、実行しています。2022年度に上智大学入学センターと教育連携の可能性を協議し、高校生、中学生にかかわらず、上智大学での授業に参加し、また、上智大学教員による出前授業を行うことを合意しました。進路指導の一環としての高大教育連携を通して、生徒が目的意識を持って学習に取り組む機会を計画、実行します。

## 3. 施設・設備

### (1) 高校棟トイレ改修工事 ★

コロナ禍の影響および本校の財政状況を踏まえた中・長期事業計画により保留となっていた高校棟トイレの改修工事を、2024年度からの高校入試導入を機に、2023年度から3ヶ年にかけて計画、実施します。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 学校全体

#### (1) 宗教性の涵養 ★

年3回のミサ、講堂朝礼での祈りと聖歌および5月と10月のロザリオの祈り、クリスマスタプロ・クリスマスキャロルを含むクリスマス行事など、本校での伝統の宗教行事を通して、生徒の宗教性を涵養します。

#### (2) 国際性の涵養 ★

海外研修（ニュージーランド中・長期留学、カナダ短期留学）、Misono English Academy, Advanced Class of English、海外からの留学生受け入れなどを通して、生徒の国際性を涵養します。

UPAS (University Pathway Admission Service) 加盟校として、推薦入試制度を利用した海外大学進学支援を行います。進学に必要な奨学金制度についての説明会も実施します。また、在学生にはスタンフォード大学およびシリコンバレーでSTEAM教育を体験できる海外研修プログラムを紹介し、参加を促します。2023年度も新型コロナウイルスの感染状況により、オンラインを利用した実施となる可能性もあります。

#### (3) 留学支援のための奨学金制度

2019年開始のニュージーランド、Sacred Heart College, Napierでの1年留学および2014年度から実施しているニュージーランドでの中期留学に、引き続き給付型奨学金を支給します。生徒・保護者への負担の軽減と、参加意欲の促進、また中学入試の広報活動へのPRにもなっています。

#### (4) 総合力育成 ★

課題解決のための思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指します。中学生の総合的な学習の時間では、学びの基本技能である「調べる・まとめる・表す」の力を高めることをテーマとします。高校生の総合的な探究の時間では、課題解決の基本技能である「対話・提案・質疑応答」の力を高めることをテーマとします。

#### (5) ICT活用 ★

2022年度から行っている通信ネットワーク環境の改善を受け、各教科の特性に応じて、ICTを活用した教育法を研究し、ICT機器を積極的かつ適切に利用するための研究、実践をさらに進めます。

#### (6) 放課後学習支援 ★

自主的な学習習慣を定着させるために、平日18時まで授業の予習復習、宿題を始め、検定試験、大学入試に備えた学習環境を充実させます。外部業者を利用した大学生によるメンター制度の導入と教科・クラス担当者による指導により、より効果的な活用を促します。また、2021年度に利用生徒の入



退室を管理し生徒が参加しやすくなるとともに、入退室システムを導入したことで、保護者にとっても安否確認の一助となっています。

高校生を対象とする受験支援については、2023年度は、英語・数学・国語の主要3教科で、進路実現に向け、外部講師による希望者への大学受験指導の講座を実施します。

## 2. 教育・研究

### (1) シラバス改良、評価方法研究、試験作成研究

2022年度の高校学習指導要領改訂に伴い、指導と評価の一体化を目指した授業の評価とあり方を研究します。

### (2) 補習・講習・自習 ★

長期休業中の補習・講習・自習について、教科横断型の内容や外部講師による講習など、様々な形態の取り組みも積極的に取り入れられる環境を整えます。

### (3) 南山大学との教育連携の強化 ★

これまでも夏季休業中を利用して南山大学教員による出前授業が行われていましたが、2023年度は中3を中心に、総合的な学習の時間として、通常の授業の中でも行います。進路指導の一環として、南山大学との教育連携を強化し、各種プログラムを通して、本校生徒がより南山大学を知り、関心を高める取り組みを行います。

### (4) 現地研修・校内研修 ★

現地研修について、中2では鎌倉へ出向き、座禅の体験と寺社仏閣の見学を通して歴史と日本文化への理解を深めます。中3では2泊3日で京都と奈良に出向き、日本の伝統文化への理解を深めるための研修を行います。また、高2では3泊4日で長崎と平戸に出向き、「祈りと平和」について思いを深めるための研修を行います。

校内研修について、中1の祈りを中心とした校内研修、高1の「愛といのち」の研修、中1・2の、「相互尊重とコミュニケーション能力の育成を目指すプロジェクトアドベンチャー研修」によって、心と体の体験学習の取り組みを継続します。さらに、2022年度より実施している中1の「礼法講座」を継続して実施し、2023年度より高1にも拡げ、相手を思う心を「作法」というかたちで表し、人間関係を円滑にし、各自が女性として品格を身につける基本を学びます。

これらは、いずれも新型コロナウイルスの感染状況によっては、日程および場所の変更を余儀なくされることもありますが、そのような中でも目的を見失うことのないよう取り組んでいきます。

### (5) 聖園祭・球技大会・クリスマス行事 ★

生徒会活動の一環として学校行事を継続します。球技大会委員会を中心に2日間、中・高別にクラス対抗で、球技大会を実施します。勝敗にとらわれず、クラス、学年の連帯感を強めることができます。また、聖園祭企画実行委員会を中心に、聖園祭を2日間実施します。委員会による企画・運営により、日ごろの成果を発表する機会を提供し、実践的な社会性を育む教育的効果を目指します。

クリスマス行事は生徒会総務局を中心に、クリスマスに向けたテーマを発信し、活動・取り組みを実施します。カトリック校ならではの教育を通して、豊かな感性を涵養します。

### (6) 芸術鑑賞教室

生徒の情操発達に資する演目の選択とその円滑な実施に努めます。

### (7) 教員研修 ★

年一回外部講師を招き、学校運営に必要な研修を行います。教員の意識改革と教育の質の向上を図ります。

## 3. 施設・設備

### (1) 省エネ活動・環境保全・美化活動

全校で取り組んでいる節電・節約を通じて、地球環境への負荷を意識し、自らの生活を顧みる取り

組みを継続して行います。また、聖園生全員で取り組んでいる清掃活動で、自ら進んで環境美化に努める意識を育みます。

## (2) 校内 LAN 設備の更新

文部科学省の GIGA スクール構想を背景として、本校の ICT 教育を図るためには、全校生徒に貸与している iPad のインターネット接続の不具合を解消し、通信品質の一層の向上が不可欠です。2021 年度に調査した現況設備の接続状況をもとに、2022 年度に校内 LAN 設備の更新を進めましたが、サーバと AP (アクセスポイント) をつなぐスイッチの多くが老朽化していることが分かりました。2024 年度にかけて、スイッチの取替を計画、実行します。

## 4. 社会貢献

### (1) ボランティア活動 ★

生徒が主体的にボランティア活動に参加し、取り組めるようサポート体制を作るとともに、社会福祉への関心を高め、活動を通して学びあい、「たすけあいの心」を育みます。主な活動として、みこころ会と生徒会が中心となり、社会福祉施設（聖園子供の家、小さき花の園および藤沢育成会など）でのボランティア活動、被災地支援のための募金活動（震災募金・歳末助け合い募金・共同募金）を継続して実施します。また、高 1 は、10 月に奉仕活動の一環として、「赤い羽根共同募金（街頭）」活動に全員参加します。その他、聖園祭での純益金を社会福祉活動、国際協力援助のために寄附します。

中 1 のコミュニケーション研修プログラムでは、「国際的な支援活動」に関する講話から実情を学び、自身の行動目標や SDGs の総合的な学習の取り組みにつなげます。

## 5. その他

### (1) 新校務支援システム導入準備

南山大学情報センターと連携を取りながら、2023 年度内の導入、2024 年度本格稼働のスケジュールが確定しました。十分なセキュリティを備えたシステムの導入および運用に向けて準備を行います。

### (2) 神奈川私学修学支援センター利用

登校困難な生徒への支援を目的とした神奈川私学修学支援センターの利用により、卒業を目指した学習活動が継続できるよう、センターと連携し、支援を継続します。

### (3) Web による出願

Web による出願、入学金納入に関するシステムを継続します。現金取り扱いのリスクを低減するとともに、より多くの受験生確保に努めます。

### (4) 積極的な入試広報活動 ★

校内外の説明会・見学会・外部模試の実施、塾訪問、SNS を始めとした Web ページの充実と最新情報の発信、入試過去問題集の出版・書店販売など、定員確保のために努めます。

### (5) 中学入試期間中の緊急時対応体制の整備

地震、大雪などによる試験開始時の延期等を受験生および受験生保護者に迅速で分かりやすく伝えます。また、入試実施中の緊急事態に備え、各部署で対応方法を検討し、一元化します。

### (6) 他校との交流 ★

南山大学を中心とした南山学園の各単位校および県内カトリック校との交流を活発にし、校内の活性化と広報活動へつなげます。

以上

# 2023年度南山大学附属小学校事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

## I. 2023年度事業計画の概要

本校は、「校訓<sup>\*</sup>」を体現する児童「知的・精神的側面において高度に磨かれた児童」「真のリーダーシップを発揮する児童」「自らに与えられた使命を自覚する児童」の育成を目指しています。2023年度も引き続きこの目標に向け、全学年にわたり、家庭および地域との教育連携を得ながら、一人ひとりの児童を慈しみ深く、時に厳しく育てます。特に2023年度は、2020年度末から続いているコロナ禍での児童の学習は、学びを止めない、元の生活に戻す方向で、家庭との連携を密に取りながら進めていきます。また、本校が南山学園共通の教育モットー「人間の尊厳のために」を実現するために存在していることを忘れず、児童がよりいっそう生き生きと学校生活を過ごすことができるように考えて実行していきます。

2023年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・2022年度準備していたSt. Brigid's Catholic Primary Schoolとの姉妹校提携を目指します。
- ・時程を見直し、新しい提案を含めて準備します。

2023年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・宿泊学習のあり方について考え、新しい宿泊学習を提案していきます。
- ・学園内連携推進協議会のもと、大学・高校・中学との連携の継続を図ります。

\*校訓

かけがえのないあなたと私のために  
神さまに愛されていることを 知る人になろう  
みんなで助けあって 生きる人になろう  
最後まであきらめず 努力する人になろう  
まわりの人やものを 愛する人になろう

## II. 新規事業

### 1. 学校全体

#### (1) St Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携に向けて

コロナ禍以前の第6学年で実施していた海外研修（シドニー）では、隔年でSt. Brigid's Catholic Primary School との交流を行っていました。持続的に相互交流活動を実施していくことで一致しており、Our Lady of the Angels Primary School(2019年度提携校)に引き続き、今後、St. Brigid's Catholic Primary School とも姉妹校提携を結ぶ予定です。姉妹校提携に向けて準備を進めます。

#### (2) 時程の見直し

児童の下校時刻や朝の時間の過ごし方の変更などを含めた時程の見直しを図り、児童、教員共に時間にゆとりができる時程の作成を進めます。

## III. 継続事業

### 1. 学校全体

#### (1) 感染状況に対応した宿泊学習の実施

新型コロナウイルス感染状況に応じた宿泊学習が安全に実施できるように、2023年度も調査・準備

を進めます。

## **(2) 家庭との連携 ★**

「かけがえのないあなたと私のために」の理念を実現するために、誰に対しても受容的である学校風土をつくることに努めています。そのため、本校の教員が講師となり保護者と交流する活動に力を入れます。

教育的な配慮が個別に必要な児童に対しては、家庭との連携を積極的に図り、継続的な面談による支援を行います。

保護者への連絡を丁寧にし、保護者との連携をさらに深め、児童の学校生活や家庭生活がともにより豊かなものとなることを目指します。本校の考えをよりよく理解していただくとともに、保護者の考えも理解できるようにします。保護者アンケートを踏まえて、改善に向けて真摯に取り組みます。

## **2. 教育・研究**

### **(1) 学習指導**

2022年度は、2021年度に引き続き「書く活動」を重視した取り組みを通して、自分の学びを豊かに表現することができる子の育成を目指し、個人研究に取り組みました。2023年度も引き続き、日々の授業の中で、児童一人ひとりが互いの良さや持ち味を尊重しながら、学びを深めていく力と姿勢を育む学習指導のあり方を探究します。また、教科ごとの授業研究や全校での授業研究にも取り組んでいくことで、「真教育」の精神に根ざした学習指導の具現化を図ります。

### **(2) 英語教育**

2023年度も、コミュニケーション能力の育成と実践の場で活用できる姿勢・能力の育成を一層重視した指導について、研究的な実践を積み重ねます。また安心して英語にふれあうことができる環境づくりを意識し、英語科教員との交流の場を授業時間以外にも多様に展開します。

### **(3) 海外研修旅行と学校間交流 ★**

国際的視野の育成および国際性涵養の一環としての研修旅行や、海外の学校との交流の実施を継続します。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020年度から海外研修旅行は中止していましたが、2023年度より再開する予定です。2023年度は、2018年度に交流した学校である St. Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携に向けて準備を進めていく予定です。

2019年度には台湾聖心小学校から本校への訪問があり、行程を改善し、一層の協力関係を築くことができました。2022年度は、オンラインでの交流を実施しましたが、2023年度も何らかの交流活動を行う予定です。今後も姉妹校として、安定した協力関係を築いていきます。

### **(4) 生活指導**

これまで新型コロナウイルス感染拡大防止対策として制限されていた学校生活が少しずつ通常に戻りつつあります。ランチや清掃活動については、感染対策を行いながらも児童による当番活動をしっかり行うことができますようにします。また、始業式などの行事や全校朝会など全校児童が集まる機会を通して、高学年が低学年の手本となる中で集団行動のマナーについても再度確かめます。

休み時間の過ごし方や校舎内での過ごし方については、子どもたち自身がよりよい学校づくりを目指していくことができるような取り組みを継続します。さらに、気持ちのよい学校生活を送るために、あいさつや言葉遣い等についても意識できるよう工夫していきます。

### **(5) 中学接続に係る取り組み ★**

中学校進学にあたり精神的に磨かれているだけではなく、進学後に必要な学力を満たすよう、授業改善、学習支援に努めました。必要な学力に達しない児童については、職員間で交流し、本人や家庭に個別の声かけを行ってきました。2023年度も中学接続について、早い段階からのアプローチを行うこと、個別指導に力を入れることを重視し、家庭と対話しつつ細かな対応ができるようにします。

### **(6) 大学・高校・中学との連携**

学園内連携推進協議会のもと、小中高協議会や小学校・大学連絡協議会で互いに共通理解を図っています。2023年度入学試験では、南山大学の多くの先生方にご協力いただきました。また、南山大学の学生による入試業務補助も継続します。一方、新型コロナウイルス感染拡大を受け、生徒クラブによる演奏披露、南山大学留学生の小学校訪問などを縮小したり、見送ったりした事業も多々ありました。

2023年度も感染状況を見ながら、適切な時期に適切な方法で連携事業を推進します。また、中学・高校教員との合同研修会についても検討します。

### **(7) 児童の自治的活動**

2022年度は、新型コロナウイルス感染症への対策をしながら、定期的に委員会の時間をもつことができ、制限があるなかで常時活動や集会、企画を実施しました。

2023年度は、代表者会をはじめとする委員会の組織を改善し、各委員会の役割やつながりをより明確にすることによって、学校生活や文化の向上を目指した活動を行います。

### **(8) 児童の安全の確保**

公共交通機関を利用する際の「あなたが先のマナー」についての意識を高めるためには、「家庭」「保護者会わかみどりの方の見守り」「学校」の協力連携がますます必要です。連携を充実させ、児童の安全確保の強化につなげます。

また、防犯対策として、2022年度から学校の門を閉めることになりました。体験活動としてはこれまで通り2年生対象のキッズ防犯プロジェクトや様々な場面や種類での避難訓練の実施を通して、児童自らが自分の命を守るためにできることを意識できるようにしていきます。

毎月のグラウンドの設備点検も継続し、必要な整備を早めに行い、児童にとっての安心安全な環境づくりに努めます。

### **(9) 教師力の向上 ★**

2022年度は、2021年度に引き続き「書く力」に注目して、自分の学びを豊かに表現することができる子の育成を目指した研究に取り組みました。新たな気づきを得るために、教科内に限らず様々なメンバーで小集団をつくり、授業研究を行いました。その成果と課題を明らかにし、2023年度も研究を積み上げ、授業力をさらに高めていきます。また、2022年度はICTを効果的に活用する研修を行いました。外部の講師だけでなく、ICT活用をリードしている教員からも学ぶことで、より具体的な活用について全職員で共有することができました。2023年度もこれまで大切にしてきた「真教育」に根ざした学びを実現するためのICTの効果的な活用方法を探ることを通して、「南山小学校ならではの学び」の発展に向けて、視野を広げます。

## **3. 施設・設備**

### **(1) 校内施設の改装**

グラウンドに新たに花壇を設置し、児童の情操教育を強化します。また、校内施設の修理・点検を継続して行います。

## **4. その他**

### **(1) 広報活動 ★**

2022年度は、本校Webページ充実と広告掲載に取り組んできました。しかし、受験者の保護者に行ったアンケートでは、紙媒体による広告掲載については効果が低いという結果となりました。多くは、本校Webページにアクセスし、学校行事や児童の様子から情報を得ていたことがわかりました。

そこで、2023年度は、より多くの情報発信を行い、SNSの活用を重視し、口コミでの広報活動を重視していきます。まず、校内の様子を日々発信することで本校児童の生活の様子を具体的に理解していただけるようにします。また、入試情報の発信もその情報発信の一部として発信していきます。現在、本校に在学している保護者や関係者とつながっていくことで広報活動が効果的に行えると考えま

す。

また、コロナ対応が緩和されていく今、受験希望の保護者の皆様に来校いただき、本校のリアルな体験をしていただきたいと思います。さらに、学校説明会、年中幼児保護者対象の学校説明会、入試説明会など、より多くの機会を作り来校していただき、本校の良さを伝えます。

## **(2) 保護者への教育相談の広報および教育相談事業 ★**

2023年度も、教育相談担当者へ教育相談予約ができる体制、南山大学保健センターから助言を受けられる体制を継続します。さらに、南山大学人間関係研究センターと連携し、子育て支援講演会と子育て支援グループの会合を定期的実施します。継続している事業のため、保護者の教育相談予約に対する認知度も高く、利用者が増えています。

また、子育て支援講演会を開催し、子育て支援グループについても再募集します。さらに、教育相談活動についても継続していきます。

## **(3) 地域との連携 ★**

2022年度は新型コロナウイルスの影響で連携が縮小していましたが、それ以前では、アフタースクールのリコーダー講座や箏講座、聖歌隊が地域の祭りで発表を行ったり、商店街の方に地域清掃に参加していただいたりするなど、「いりなか商店街」や「八事商店街」との連携が定着しています。「南山小見守り隊」も地域の方の新規登録を継続して募集しています。

生活科や社会科の学習を通して地域の方とふれ合う活動を大切に、児童の地域への感謝の気持ちが高まることを目指します。また、地域社会の一員としての奉仕の心や地域を愛する心も育みます。このことが、児童の安全確保にもつながると考えます。さらに、地域の小学校とも連携し、地域社会の中で共に児童を育てます。

以 上

## 2023年度聖園女学院附属聖園幼稚園事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

### I. 2023年度事業計画の概要

2022年度に創立80周年を迎え、歴史ある本園での保育に誇りを持ち、伝統を尊重し、継続しながらも、時代に合うよう保育内容を見直します。また、日々の保育の中で子どもたちに自立心、道徳心、思考力を養い、自身の考えを言葉で伝える力を身につけ、個々の能力を高められる環境作りを整備します。

さらに、一人でも多くの園児確保に努め、正課保育はもちろん、満3歳児の受け入れ、預かり保育、プレ保育、課外保育についても、内容を見直しながら提供します。

2023年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・本園の魅力を発信し、優秀な教育職員確保のため実習生を積極的に受け入れ、今まで以上に養成機関に出向くことに取り組みます。
- ・英語教育の充実を図り、正課授業に加え課外授業を開設します。
- ・衛生的かつ明るい環境整備として、全保育室のカーテンを新調するとともに、老朽化している壁の塗装を行います。
- ・窓ガラスに飛散防止フィルムを貼り、地震被害に備えます。

2023年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・新型コロナウイルス感染防止を含めた、園児の安全・安心を守るための危機管理体制を強化します。
- ・聖園女学院高等学校・中学校、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園との教育連携を行います。
- ・保護者との協力体制をより一層深め、子育て支援の援助を継続します。
- ・クリスマス献金や老人ホーム訪問など、社会貢献や地域貢献を継続します。

### II. 新規事業

#### 1. 学校全体

##### (1) 教育職員の安定的な確保

園児の安全・安心を守るためには、何よりも教育職員が適切に機能し配置されていることが必要です。円滑に採用ができるよう、Webページを活用して本園の魅力を発信し、実習生の受け入れを積極的にを行い、今まで以上に養成機関に出向くことに取り組みます。

#### 2. 教育・研究

##### (1) 英語課外授業の開設 ★

園児の英語への興味、保護者の英語教育への関心は年々高まっています。本園として英語教育の充実を図り、正課授業に加え課外授業も開設します。

#### 3. 施設・設備

##### (1) 園内環境整備

園児はもちろん、教職員および保護者にとって衛生的かつ明るい環境を整備するために、全保育室のカーテンを新調するとともに、老朽化している壁の塗装を行います。また、窓ガラスに飛散防止フィルムを貼り、地震被害に備えます。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 学校全体

#### (1) 教育プログラムの見直しの継続

本園の教育目標は、キリスト教世界観に基づき、学園共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」を尊重し、幼児期に必要な心身の調和の取れた人間の育成を目指しています。新たな課題に挑戦し、幼児の幅広い能力を高める環境作りを継続していくとともに、幼児の体力増進に向けて一層の体育教育の強化に取り組みます。また、国際感覚を養うため英語を他者理解のツールとして楽しく学べる環境作りを継続するために教育プログラムの充実を図ります。さらに、学園内連携として、聖園女学院高等学校の高1家庭科での保育実習を引き続き行うとともに、コロナ禍で控えていた聖園女学院附属聖園マリア幼稚園との交流も再開し、総合学園だからこそできる活動を一層深めます。

#### (2) 保護者との協力体制

コロナ禍でコミュニケーションを取る機会が減ってしまったため、今まで以上に本園の教育方針をクラス懇談会や個別面談を通して園児の様子をきめ細かく伝え、保護者とともに心の通い合うつながりを持ち寄り添いながら協力し合い、園児の成長を見守り続けます。

#### (3) 危機管理体制の継続

園児の安全確保のため、来園時や送迎時の保護者カードを携帯するよう保護者に要請します。また、通園バス内の置き去り事故等の防止のために、バス降車時の目視確認を徹底し、欠席連絡と登園時の出席確認を照らし合わせ、連絡のない園児については電話で必ず確認を行い、事故の未然防止のための対策を徹底します。

新型コロナウイルス感染症対策としては、2020年度に整備した次亜塩素酸空間除去脱臭機や小型オゾン除菌・消臭機、加湿器などを今後も活用し、消毒などの日々の取り組みも含め継続します。

#### (4) 子育て支援に関する援助 ★

預かり保育、給食の提供、満3歳児の受け入れを今後も継続します。預かり保育では、家庭教育の温かさを保ちながら、園児に無理のないカリキュラムに沿った活動を展開します。また、給食は普通食とアレルギー食の2種類を用意し、保護者に毎月届くメニューを配布し、何にアレルギーがあるのかを記入のうえアレルギー食を申し込めるよう、健康や安全面も配慮し、提供します。

#### (5) 広報活動

幅広い方々に本園を知っていただけるよう、日々の行事や保育内容をWebページで発信します。また、プレ保育等の告知や申し込みをWebページからできるようにします。

その他、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園と協力し、藤沢市内を走行するバスに広告を掲載する等、広報活動に力を注ぎます。

### 2. 教育・研究

#### (1) 季節の行事に触れ、体験する知的理解教育の推進

季節の行事に触れることは、幼児教育での知的理解において重要な意味を持ちます。四季を通して日本の文化に触れ、体験することによって、より興味や関心が持てるよう取り組みます。

#### (2) 宗教性教育の推進

イエスの降誕を表現する劇（聖劇）を通して、園児の表現力を培い、神の愛を知りすべての人を愛する心を育みます。

#### (3) 戸外遊びの充実

戸外における遊びや活動を充実させ、体力はもちろん、自発性、創造力、発想力、協調性を培います。



### 3. 社会貢献

#### (1) プレ保育の実施 ★

2019年より未就園児とその保護者を対象にプレ保育を始めました。幼稚園の楽しさを伝え、子育ての悩みを保護者同士で分かち合い、教職員に相談できる場として提供し、次年度の入園につなげます。

#### (2) クリスマス献金 ★

クリスマスの意味を伝え、世界中に恵まれない子どもたちがいることを学び、少しずつ献金をすることで、命の大切さや人のために役立つ喜びを伝え続けます。

#### (3) 勤労感謝 ★

勤労感謝の意味を知り、日々お世話になっている身近な人々に感謝の気持ちを伝え、プレゼントを贈ります。日常生活は多くの方々の陰の力で成り立っていることに気づき、感謝する気持ちを育む教育を続けます。

#### (4) 老人ホームへの訪問 ★

クリスマスに老人ホームを訪れ、歌のプレゼントをします。相手の喜ぶ姿が自分の喜びにもなる体験を通して、将来の職業観の育成を行います。

#### (5) エコキャップの回収

医療の助けになるように、家庭で使用した飲料水のボトルキャップを年間を通して回収し、寄附を行います。自分とは違う環境で生活している子供たちが世界にいることを知り、自分に何ができるかを考える教育を行います。

以 上

## 2023年度聖園女学院附属聖園マリア幼稚園事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

### I. 2023年度事業計画の概要

本園の特色「おいのり・親切・がまん・ありがとう」を大切にできるよう園児に伝えるとともに、心身のバランスのとれた成長を促すために園児一人ひとりを育てることを心がけていきます。また、これまで以上に保護者の声に耳を傾け、本園のあり方を確認し改善することに努めます。

新型コロナウイルス感染状況を注視しつつも、緩和されてきている感染対策方法を考慮し、事業全体あるいはその実施方法を検討し、園児を始め、保護者や教職員の安全・安心を心がけながら、可能な限りこれまでの内容を基本とする事業計画を進めます。

2023年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・Webページの写真掲載や保護者参観を充実させ、開放された保育を目指します。
- ・広い園庭を利用して園庭開放を行い、園児募集につなげます。
- ・プレ保育の時間帯を通常の保育時間帯にも設定し、本園をより身近に感じ参加できるようにします。
- ・Web受付フォームを導入し、在園児の給食や園見学申し込みの利便性を高め、活用しやすい環境を整備します。

2023年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・新型コロナウイルス感染防止を含めた、園児の安全・安心を守るための危機管理体制を継続します。
- ・小型スクールバスを活用し、保護者のニーズに合ったバスルートを開拓します。
- ・子育て支援事業としての未就園児対象「ひよこらんど」を充実させ、園児募集につなげます。
- ・身近で働く方や聖心の布教姉妹会修道院、シニアホームに園児の作品を届け、日頃の感謝の気持ちを伝えます。

### II. 新規事業

#### 1. 学校全体

##### (1) 開放された保育の充実

Webページの活用により保育の「見える化」をすることで保護者とのコミュニケーションを高めるとともに、保育者の質の向上につなげます。新型コロナウイルスの感染状況に合わせコロナ禍以前のように参観日を設定するよう努め、保育の様子を撮影した写真や動画を披露する場を持つとともに、保護者と園児の成長を共有することで保育者との信頼関係を強め、安心して預けられる環境づくりに励みます。

##### (2) 園庭開放

広い園庭を活かして、入園を考えている幼児および保護者が来園する機会を増やすことで、保育者との関わりや保護者同士の交流の場を持ちます。また、本園に親しみを感じられる場を設定し、園児募集につなげます。在園児やプレ保育に申し込まれた方に限ることで不審者の侵入を防ぎ、保護者に安全面の取り組みを発信するよう努めます。

##### (3) プレ保育の充実

プレ保育開始時間を通常の保育時間帯にも設定し、普段の保育の様子や園児の発表を通して成長していく姿を見ていただく機会を持ちます。また、幼稚園の敷地内に駐車しているスクールバスに保護者と一緒に乗る体験をしていただくことで、保護者にもスクールバスでの安全確認の取り組みや運行

の安全性をアピールし、幼稚園への期待を高めていただけるようにします。来園する機会を増やすことで保育者との関わりや保護者同士の交流の場も増やし、子育てへの不安を解消する場として親しみやすい幼稚園を目指します。

## 2. 施設・設備

### (1) Web 受付フォームを活用した各種利用申し込みの導入

在園児を対象とした給食の申し込み、園見学の申し込みなどの利便性を考慮し、Web 受付フォームが活用できる環境を整備することで、保護者を始めとする利用者に定着させていきます。利用者は空き時間を活用できるとともに、職員は集計の効率化を図ることが可能になります。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 学校全体

#### (1) 新型コロナウイルス感染防止対策の継続

2020 年度に整備した次亜塩素酸空間除菌脱臭機、小型オゾン除菌消臭機、加湿器などを今後も活用し、消毒などの日々の取り組みも含め継続していきます。新型コロナウイルス感染症以外の疾病に対しても園の対策を知らせられるように園医との連携を継続します。保育の様子を Web ページ等を利用して発信するとともに、園児や保護者が安心して幼稚園での生活を送ることができるように努めます。また、コロナ禍で控えていた聖園女学院高等学校・中学校と聖園女学院附属聖園幼稚園との交流も再開します。

### 2. 施設・設備

#### (1) 小型スクールバスの活用 ★

小型スクールバス導入によりこれまでのバスでは困難であったコースの開拓が可能となったため、通園の利便性を高めることはもちろん、園名のアピールや園児確保につなげます。

### 3. 社会貢献

#### (1) 子ども子育て支援事業「ひよこらんど」の開催 ★

未就園児対象「ひよこらんど」参加者の過半数が次年度に入園している実績を見ても、この事業の存在が園児獲得に大きく貢献していることが分かります。新型コロナウイルス感染防止対策を継続させながら「ひよこらんど」を開催し、同年齢児や保護者の交流、子育ての悩み相談などを気軽に話せる場として提供します。

#### (2) 地域の方々への感謝 ★

郵便配達員や交番、駅員をはじめ身近で働く方々へ園児が作成した作品を直接届け、感謝を伝えています。新型コロナウイルス感染防止の観点から、聖心の布教姉妹会修道院・シニアホームを訪問することを控えていますが、保育者が園児の作品を届ける方法で継続します。

以 上